

【表紙】

【提出書類】	有価証券報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成22年6月24日
【事業年度】	第49期（自平成21年4月1日至平成22年3月31日）
【会社名】	田中商事株式会社
【英訳名】	TANAKA CO.,LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 河合 勝彦
【本店の所在の場所】	東京都品川区南大井三丁目2番2号
【電話番号】	03（3765）5211（代表）
【事務連絡者氏名】	取締役管理本部長兼経理部長兼経営企画室長 春日 国敏
【最寄りの連絡場所】	東京都品川区南大井三丁目2番2号
【電話番号】	03（3765）5211（代表）
【事務連絡者氏名】	取締役管理本部長兼経理部長兼経営企画室長 春日 国敏
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

第一部【企業情報】

第１【企業の概況】

１【主要な経営指標等の推移】

(１) 連結経営指標等

回次 決算年月	第45期 平成18年 3 月	第46期 平成19年 3 月	第47期 平成20年 3 月	第48期 平成21年 3 月	第49期 平成22年 3 月
売上高（千円）	-	20,796,843	20,069,305	17,824,960	15,930,909
経常利益（千円）	-	1,396,653	1,096,360	772,132	278,818
当期純利益（千円）	-	799,510	618,278	419,443	134,406
純資産額（千円）	-	7,670,389	7,922,359	8,158,362	8,225,420
総資産額（千円）	-	18,994,087	17,749,426	17,115,615	17,107,730
1株当たり純資産額（円）	-	870.72	899.35	926.16	933.79
1株当たり当期純利益（円）	-	90.76	70.19	47.61	15.26
潜在株式調整後1株当たり当期純利益（円）	-	-	-	-	-
自己資本比率（％）	-	40.4	44.6	47.7	48.1
自己資本利益率（％）	-	10.7	7.9	5.2	1.6
株価収益率（倍）	-	10.3	8.4	7.1	22.4
営業活動によるキャッシュ・フロー（千円）	-	859,694	1,337,592	1,505,358	222,317
投資活動によるキャッシュ・フロー（千円）	-	1,037,980	419,426	490,548	410,876
財務活動によるキャッシュ・フロー（千円）	-	317,609	975,283	440,377	472,610
現金及び現金同等物の期末残高（千円）	-	687,852	630,735	1,205,168	543,998
従業員数（人）	-	381	383	376	374

- （注）１．第46期より連結財務諸表を作成しているため、それ以前については記載しておりません。
 ２．売上高には消費税等は含まれておりません。
 ３．潜在株式調整後1株当たり当期純利益は、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(2) 提出会社の経営指標等

回次 決算年月	第45期 平成18年 3 月	第46期 平成19年 3 月	第47期 平成20年 3 月	第48期 平成21年 3 月	第49期 平成22年 3 月
売上高（千円）	19,040,221	20,408,887	19,334,435	17,163,351	15,338,161
経常利益（千円）	1,043,693	1,381,624	1,075,989	753,511	259,328
当期純利益（千円）	602,592	793,087	611,016	412,479	124,067
持分法を適用した場合の投資 利益（千円）	-	-	-	-	-
資本金（千円）	1,073,200	1,073,200	1,073,200	1,073,200	1,073,200
発行済株式総数（株）	8,832,000	8,832,000	8,832,000	8,832,000	8,832,000
純資産額（千円）	7,083,974	7,663,965	7,908,673	8,137,711	8,194,430
総資産額（千円）	16,970,158	18,638,467	17,408,604	16,831,579	16,861,006
1株当たり純資産額（円）	801.64	869.99	897.80	923.82	930.27
1株当たり配当額 （内 1株当たり中間配当額） （円）	21.00 (-)	27.00 (-)	27.00 (13)	14.00 (6)	10.00 (-)
1株当たり当期純利益（円）	65.90	90.03	69.36	46.82	14.08
潜在株式調整後 1株当たり当 期純利益（円）	-	-	-	-	-
自己資本比率（％）	41.7	41.1	45.4	48.4	48.6
自己資本利益率（％）	8.8	10.8	7.8	5.1	1.5
株価収益率（倍）	14.7	10.4	8.5	7.2	24.3
配当性向（％）	31.9	30.0	38.9	29.9	71.0
営業活動によるキャッシュ・ フロー（千円）	776,431	-	-	-	-
投資活動によるキャッシュ・ フロー（千円）	245,560	-	-	-	-
財務活動によるキャッシュ・ フロー（千円）	633,913	-	-	-	-
現金及び現金同等物の期末残 高（千円）	548,528	-	-	-	-
従業員数（人）	348	356	352	341	341

（注）１．売上高には消費税等は含まれておりません。

２．潜在株式調整後 1株当たり当期純利益は、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

３．第46期より連結財務諸表を作成しているため、持分法を適用した場合の投資利益、営業活動によるキャッ
シュ・フロー、投資活動によるキャッシュ・フロー、財務活動によるキャッシュ・フロー、現金及び現金同等
物の期末残高については記載しておりません。

2【沿革】

現代表取締役会長河合日出雄は昭和25年10月に静岡県静岡市人宿町2丁目において、電設資材の卸売を目的に個人経営で田中商店を創業、昭和29年10月には合資会社田中商店（出資金50万円）に改組し事業を営んでおりましたが、業容の一層の拡大を図るため昭和37年12月に当社を設立いたしました。当社は翌年2月に合資会社田中商店を吸収合併し、業務の一切を引継ぎ現在に至っております。

当社の設立から現在までの主な沿革は次のとおりであります。

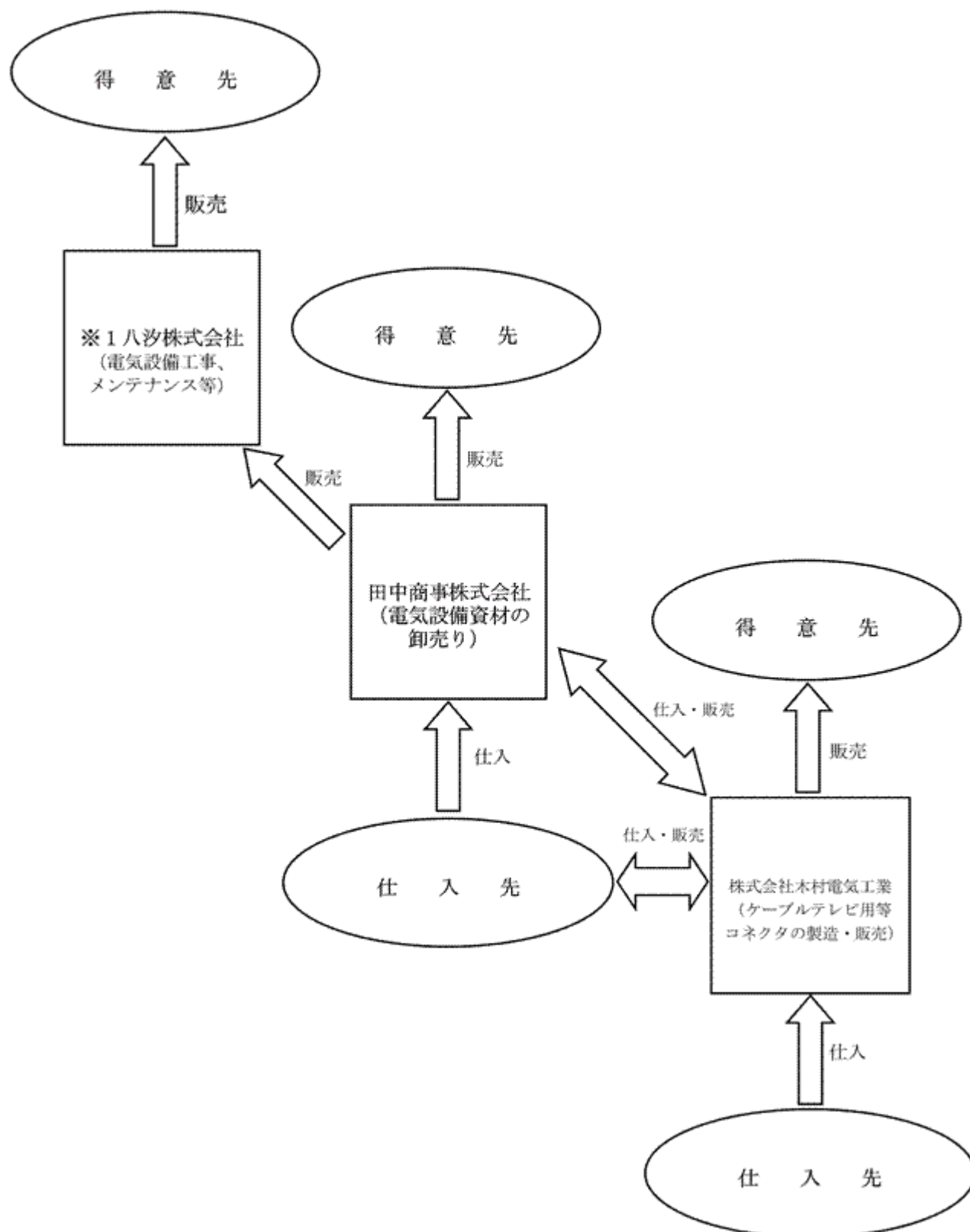
年月	沿革
昭和37年12月	静岡県静岡市吉野町5番10号に田中商事株式会社（資本金100万円）を設立
昭和38年2月	合資会社田中商店を吸収合併し、業務の一切を引継ぐ
昭和38年4月	北海道釧路市に釧路営業所を開設
昭和39年1月	静岡県富士市に富士営業所を開設
昭和39年4月	東京都港区に東京営業所を開設（昭和46年8月東京都品川区に移転）
昭和44年4月	宮城県仙台市に仙台営業所を開設（昭和48年12月仙台市若林区に移転）、横浜市神奈川区に横浜営業所を開設
昭和46年8月	東京都品川区南大井三丁目2番2号に本社を新築移転し、旧本社を静岡営業所とする
昭和48年10月	名古屋市中川区に名古屋営業所を開設
昭和58年9月	東京都三鷹市に多摩営業所を開設
昭和62年9月	川崎市幸区に川崎営業所を開設（平成7年3月川崎市川崎区に移転）
平成2年10月	埼玉県大宮市（現さいたま市北区）に大宮営業所を開設
平成4年7月	札幌市豊平区に札幌東営業所を開設
平成5年12月	埼玉県川口市に川口営業所を開設
平成6年10月	千葉市中央区に千葉営業所を開設
平成8年9月	株式会社デンザイセンターより営業の全部を譲り受け、当社の大宮営業所に統合すると共に、新たに坂戸営業所を開設
平成11年11月	日本証券業協会に株式を店頭登録
平成13年4月	千葉県船橋市に船橋営業所、同松戸市に松戸営業所を開設
平成14年2月	東京都町田市に町田営業所を開設
平成14年4月	東京都台東区に台東営業所を開設
平成15年2月	東京証券取引所市場第二部に株式を上場
平成15年9月	東京都北区に王子営業所を開設
平成16年1月	東京都江東区に江東営業所を開設
平成16年3月	東京証券取引所市場第一部に株式を指定替え
平成16年9月	東京都渋谷区に渋谷営業所、神奈川県藤沢市に湘南営業所を開設
平成17年10月	川崎市宮前区に川崎北営業所を開設
平成18年8月	株式会社木村電気工業（連結子会社）の株式取得
平成18年10月	東京都江戸川区に江戸川営業所を開設
平成18年12月	千葉県柏市に柏営業所を開設
平成19年5月	福岡市東区に福岡営業所を開設
平成19年7月	横浜市南区に横浜中央営業所を開設
平成20年5月	大阪市平野区に大阪営業所を開設
平成20年8月	東京都板橋区に池袋営業所を開設
平成20年12月	埼玉県熊谷市に熊谷営業所を開設
平成21年4月	八汐電気株式会社の株式取得
平成21年6月	栃木県宇都宮市に宇都宮営業所を開設
平成21年9月	東京都大田区に蒲田営業所を開設

3【事業の内容】

当社企業グループは、当社と子会社2社で構成されており、電気設備資材の卸売り、ケーブルテレビ用等のコネクタの製造・販売、電気設備工事を主たる事業としております。

なお、当連結会計年度において、八汐電気株式会社の株式を取得し、100%子会社としております。

これらを系統図でしますと、次のとおりであります。



(注) 無印 連結子会社

1 非連結子会社で持分法非適用会社

4【関係会社の状況】

名称	住所	資本金 (千円)	主要な事業内容	議決権の所有 割合又は被所有 割合(%)	関係内容
(連結子会社) (株)木村電気工業	東京都北区	49,900	放送機器の製造・販売 等	100.0	コネクタの製造・ 販売、通信機器類の 販売をしている。 役員の兼任あり。

5【従業員の状況】

(1) 連結会社の状況

事業の種類別セグメント情報を記載していないため、事業部門別の従業員数を示すと次のとおりであります。

平成22年3月31日現在

事業部門の名称	従業員数(人)
販売部門	325
製造部門	20
管理部門	29
合計	374

(2) 提出会社の状況

平成22年3月31日現在

従業員数(人)	平均年令(才)	平均勤続年数(年)	平均年間給与(円)
341	35.3	10.8	3,915,065

(注) 平均年間給与には、基準外賃金及び賞与が含まれております。

(3) 労働組合の状況

労働組合は結成されておりませんが、労使関係は円満に推移しております。

第2【事業の状況】

1【業績等の概要】

(1) 業績

当連結会計年度におけるわが国経済は、政府の緊急経済対策をはじめとする政策効果などにより、個人消費の持ち直しや、世界的な金融危機による景気後退局面から、世界経済での一部回復の兆候がみられてきたものの、自律性に乏しく、物価動向に緩やかなデフレの傾向がみられることに加え、雇用情勢に依然厳しさが残るなど、厳しい状況で推移しました。

当企業グループの属する建設関連業界においても、経済動向の回復兆候により、住宅着工件数推移に下げ止まり感がみられたものの、企業収益の先行きに対する不透明感から設備投資抑制の影響を受け、公共投資、民間投資ともに厳しい状況で推移しました。

このような状況のなか、当企業グループにおいては、営業ネットワーク網の拡充、地域密着営業による新規需要の獲得及び既存得意先への深耕営業を進めてまいりました。新規需要の獲得については、平成21年6月に栃木県宇都宮市へ宇都宮営業所を、同9月には東京都大田区へ蒲田営業所をそれぞれ開設いたしました。この出店によって首都圏での需要の取り込みをさらに進めてまいりました。

また、8月からはさらなる増収を図るべく、大きく営業方針の転換を推進し、積極的な受注活動を行ってまいりました。

子会社の株式会社木村電気工業においても、世界的な景気後退局面から、自律性に乏しい景気回復の動きの中で、営業エリア及び取扱商品の見直し等、新たな需要の掘り起こしにより業績の向上を図ってまいりました。

加えて、平成21年4月にM & Aにより栃木県宇都宮市の電気工事会社八汐電気株式会社の株式を取得し、物件情報、取扱商品、受注活動等にシナジー効果を図ってまいりました。

この結果、当連結会計年度の商品分類別連結売上高は、照明器具類3,552,185千円（前期比98.6%）、電線類4,916,836千円（前期比80.1%）、配・分電盤類4,677,053千円（前期比91.5%）、家電品類1,285,418千円（前期比100.6%）、その他の品目1,499,415千円（前期比88.5%）を計上し、当連結会計年度の連結売上高は15,930,909千円（前期比89.4%）となり、同利益面におきましては営業利益10,834千円（前期比2.3%）、経常利益278,818千円（前期比36.1%）、当期純利益134,406千円（前期比32.0%）となりました。

(2) キャッシュ・フロー

当連結会計年度における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前連結会計年度末に比べて661,169千円減少し、543,998千円となりました。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果得られた資金は、売上債権の増加及び棚卸資産の増加等があったものの、仕入債務の増加等により222,317千円（前年同期に得られた資金は1,505,358千円）となりました。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果使用した資金は、関係会社株式の取得及び新設営業所の土地・建物の取得等に係る支払い等により410,876千円（前年同期に使用した資金は490,548千円）となりました。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果使用した資金は、借入金等の返済及び利益配当金の支払い等により、472,610千円（前年同期に使用した資金は440,377千円）となりました。

2【仕入及び販売の状況】

(1) 商品仕入実績

当連結会計年度の商品仕入実績を品目別に示すと、次のとおりであります。

品目	当連結会計年度 (自 平成21年 4 月 1 日 至 平成22年 3 月31日)	前年同期比(%)
照明器具類(千円)	3,045,643	1.2
電線類(千円)	4,029,593	14.7
配・分電盤類(千円)	3,924,961	6.1
家電品類(千円)	1,228,885	10.7
その他(千円)	1,113,493	8.9
合計(千円)	13,342,577	6.3

(注) 上記金額には、消費税等は含まれておりません。

(2) 商品販売実績

当連結会計年度の商品販売実績を品目別に示すと、次のとおりであります。

品目	当連結会計年度 (自 平成21年 4 月 1 日 至 平成22年 3 月31日)	前年同期比(%)
照明器具類(千円)	3,552,185	1.4
電線類(千円)	4,916,836	19.9
配・分電盤類(千円)	4,677,053	8.5
家電品類(千円)	1,285,418	0.6
その他(千円)	1,499,415	11.5
合計(千円)	15,930,909	10.6

(注) 上記金額には、消費税等は含まれておりません。

3【対処すべき課題】

今後のわが国経済は、雇用情勢などに厳しさが残るものの、世界経済の回復や、企業収益の改善等により、景気の持ち直し傾向が緩やかに続いていくものと思われます。しかしながら、国内の物価動向におけるデフレの懸念等、景気を下押しするリスク材料が引き続き存在することも予想され、予断の許さぬ状況は依然、継続するものと思われます。

当企業グループの属する建設関連業界におきましても、石油等の資源価格の乱高下などが景気回復に少なからず影響を与える可能性があることに加え、公共投資が弱含んでいるものの、企業収益の改善等により、年度後半には需要が上向いてくるものと予測しております。

このような経済環境において、当企業グループは更なる経営基盤の拡充を図るべく、営業拠点の新設をはじめ、M & A等を通じて業容の拡大を図ってまいります。

具体的には、営業ネットワークの拡充においては、現在53カ所の営業拠点に加えて、熊本県熊本市、福岡県北九州市に営業所を新設する等、全国ネットワークの拡大を計画し、市場占有率の向上に注力してまいります。営業ネットワーク網の拡充は、当社の重要な戦略であり、毎年1～3営業所の新設営業所の開設を推進することにより、首都圏をはじめ北海道から九州にかけて全国的な需要獲得で経営基盤の強化に努めてまいります。

また、M & Aについては、関連業種を含めた幅広い調査を行い、積極的に推進してまいります。

さらに営業戦略として、引き続き新規顧客開拓及び既存顧客の需要の掘り起こしを行うことで、更なる地域シェアの拡大を図るとともに、物件の積極的な受注活動を展開していくことで、収益の創造と獲得を図ってまいります。

4【事業等のリスク】

当社企業グループの業績は、今後起こりうる様々な要因により大きな影響を受ける可能性があります。以下において、当社企業グループの事業展開上のリスク要因となる可能性があると考えられる主な事項を記載しております。また、必ずしも事業上のリスクに該当しない事項についても、投資判断上、あるいは当社企業グループの事業活動を理解する上で重要と考えられる事項については、投資家に対する情報開示の観点から積極的に開示しております。当社企業グループはこれらのリスク発生の可能性を認識した上で、発生の予防及び発生した場合の対応に努める方針であります。当社株式に関する投資判断は、以下の記載事項及び本項目以外の記載事項を慎重に検討した上で、行っていたくようお願い致します。

なお、以下の記載は当社株式への投資に関するリスクをすべて網羅するものではありませんので、この点にご留意ください。また、将来事項に関する記述につきましては当連結会計年度末（平成22年3月31日）現在において当社が判断したものであります。

(1) 田中商事株式会社の事業環境について

当社の販売先が属する建築関連業界は、景気動向、金利動向、地価動向及び住宅税制等の影響を比較的受けやすい傾向にあります。したがって、景気の低迷による所得見通しの悪化、市場金利の上昇、地価上昇及び税制の強化等により、事業環境が悪化した場合には、業績に影響を及ぼす可能性があります。

特に、当社の営業地域において、これらの外部環境要因の悪化が生じ、建築・設備工事発注者の投資意欲の抑制や、一般消費者のマイホーム購買意欲の減退等により、設備投資件数または新設住宅着工戸数の減少等が生じた場合には、当社業績に影響を及ぼす可能性があります。

また、景気低迷の影響により、電気設備資材の需要が低迷した場合には、当社と同業者との競合が激化し、取扱商品の販売価格が下落する等により当社の利幅が縮小する可能性があります。

(2) 田中商事株式会社の営業所の自社所有について

当社は営業所を自社保有とすることを基本方針としており、現在の営業所53カ所のうち、自社保有物件は49カ所（このうち、2カ所は建物のみ自社保有）であります。営業所を自社保有とする理由は、倉庫や駐車場等の営業設備を、当社戦略に合致させるように自由に企画・設置できること、並びに金融面・求人面等の社会的信用が向上すると考えられること等にあります。

当社は、每期1～3カ所の営業所新設を進めております。営業所新設のための所要資金は、一営業所当たり概算で2～3億円程度を予定しており、当該資金は、主として自己資金及び金融機関からの借入金により賄う方針であります。

営業所の新設にあたっては、事前のマーケティング調査を十分に行うとともに、社内基準にしたがって、当社の収益が拡大すると予想される地域に設置する方針であります。しかしながら、新設した営業所が当初計画したとおりの収益を計上できなかった場合、あるいは、収益計上までに計画した以上の期間がかかった場合等には、投下資本の回収に時間を要し、有利子負債残高の増加が負担となることから、当社業績に影響を及ぼす可能性があります。

(3) 田中商事株式会社の仕入割引の計上について

当社は、仕入代金の90%以上を現金で支払っており、各仕入先との契約により約2～3%の割引率で仕入割引料を受領し、損益計算書の営業外収益に計上しております。仕入代金の支払いにあたっては、当社は今後とも現金支払率を上げる方針ですが、市場金利の変動、あるいは当該仕入割引率が変更になった場合等には、当社業績に影響を及ぼす可能性があります。

(4) 当社企業グループ業績の季節的な変動について

当社企業グループは、各種建造物の電気工事に使用される電気材料及び電気器具を主たる商品として取扱っていることから、当社企業グループの売上高は、建設工事の竣工が集中する年末近くの11月及び12月、並びに年度末の3月に増加する傾向があります。したがって、当社業績は下半期に偏重する傾向があります。

5【経営上の重要な契約等】

該当事項はありません。

6【研究開発活動】

該当事項はありません。

7【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末（平成22年3月31日）現在において当社グループが判断したものであります。

（1）重要な会計方針及び見積り

当社グループの連結財務諸表は、我が国において一般に公正妥当と認められている会計基準に準拠して作成しております。その作成には、経営者による会計方針の選択・適用、決算日における財政状態及び経営成績に影響を与えるような経営者の会計上の見積りを必要とします。

当社は、会計上の見積りについて、過去の実績、現在の状況等を勘案し合理的かつ慎重に判断しております。しかしながら、実際の結果は、見積り特有の不確実性のため、これら会計上の見積りと異なる場合があります。また、連結財務諸表の作成に当たり採用する重要な会計方針は、「第5 経理の状況 1 連結財務諸表等 (1)連結財務諸表 連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」に記載しておりますが、特に以下の事項は、経営者の会計上の見積りの判断が財政状態及び経営成績に重要な影響を及ぼすと考えております。

貸倒引当金

当社グループは、債権の貸倒による損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。将来、顧客の財務状態が悪化等により、引当金の追加計上が発生する可能性があります。

繰延税金資産

当社グループは、繰延税金資産の計上は、将来の利益計画に基づいた課税所得が十分に確保できること、また繰延税金資産の資産性があることを慎重に判断したうえで計上しております。繰延税金資産の回収可能性は、将来の課税所得の見積りに依存しますので、その見積り額が減少した場合は繰延税金資産が減額され、税金費用が計上される可能性があります。

（2）経営戦略の現状と見通し

当社は、営業ネットワーク網の拡充と新規開拓による市場占有率の向上といった拡大戦略を行っております。

近年のネットワーク網の拡充は、首都圏を中心として行っております。首都圏を中心としている理由は、同商圏内に大手企業をはじめとする各種法人の本社機能が集中しており、オフィスビル、工場、マンション、アパート、戸建住宅等の新設及びリニューアルが他商圏と比較して各段に多いことから、当社の取扱商品の需要が多く見込めるためであります。

それと同時に、平成19年5月に福岡営業所を、平成20年5月に大阪営業所を新設し西日本進出の足がかりとしてまいりました。今後につきましても、西日本への出店を進めて参る所存であります。

具体的には、平成22年3月期は平成21年6月に栃木県宇都宮市へ宇都宮営業所を、同9月には東京都大田区へ蒲田営業所を新設し、平成23年3月期は、熊本県熊本市、福岡県北九州市へ営業所を新設する予定であります。

平成23年3月期以降においても、1～3ヵ所の営業所新設を検討しております。

新設営業所はゼロから新規に得意先作りを行っておりますので、そこでの営業活動は当社の拡大戦略に貢献しております。既存営業所においても、得意先の新規開拓を軸に市場占有率の更なる向上を視野にいたした営業展開を推進しております。当企業グループにおける出店戦略は、業績拡大の重要な一部である為、今後も現状の空白エリアをターゲットに積極的に進めてまいります。

このような出店戦略に加え、早期需要取り込みの手段として、M & Aにも慎重かつ積極的に取り組んでまいります。

当連結会計年度におきましては、平成21年4月に栃木県宇都宮市へ本社を構える電気工事業を営む八汐電気株式会社の株式を取得しました。

今後も、このような市場占有率の向上を進め、積極的な拡大戦略を図ってまいります。

また、関連業種との連携による需要の取り組みといたしましては、子会社である株式会社木村電気工業とそれぞれの営業エリアの補充、関連業種であることを活かした受注等、シナジー効果を生む戦略も強化し、業績拡大を目指す所存であります。

(3) 財政状態の分析

(流動資産)

当連結会計年度の流動資産は、受取手形及び売掛金の増加があったものの、現金及び預金の減少等により、前連結会計年度末に比べ299,139千円減少し、7,051,252千円となりました。

(固定資産)

当連結会計年度の固定資産は、関係会社株式の取得、蒲田営業所の開設及び新設営業所用地取得、リース資産の増加等により、前連結会計年度末に比べ291,254千円増加し、10,056,478千円となりました。

(流動負債)

当連結会計年度の流動負債は、支払手形及び買掛金の増加等があったものの、短期借入金の返済による減少等により、前連結会計年度末に比べ197,464千円減少し、8,003,210千円となりました。

(固定負債)

当連結会計年度の固定負債は、リース負債の増加等により、前連結会計年度末に比べ122,521千円増加し、879,099千円となりました。

(純資産の部)

当連結会計年度の純資産は、剰余金の配当があったものの、当期純利益の計上等により、前連結会計年度末に比べ67,058千円増加し、8,225,420千円となりました。

なお、自己資本比率は48.1%、1株当たり純資産は933円79銭となりました。

(自己資本利益率)

当連結会計年度の自己資本利益率は、1.6%となりました。

(4) 経営成績の分析

(売上高)

当連結会計年度の売上高は、経済動向の回復兆候により、住宅着工件数推移に下げ止まり感がみられたものの、企業収益の先行きに対する不透明感から設備投資抑制の影響を受け、公共投資、民間投資ともに厳しい状況で推移しましたこと等により厳しい市況が続きましたこと等により、15,930,909千円（前期比89.4%）となりました。

(営業利益)

当連結会計年度の営業利益は、販売費及び一般管理費の削減もありましたが、売上高の減収による売上総利益の減少等により、10,834千円（前期比2.3%）となりました。

(経常利益)

当連結会計年度の経常利益は、営業利益の減少等により、278,818千円（前期比36.1%）となり、売上高経常利益率は1.8%となりました。

(税金等調整前当期純利益)

当連結会計年度の税金等調整前当期純利益は、経常利益の減少等により、280,399千円（前期比36.2%）となりました。

(当期純利益)

当連結会計年度の当期純利益は、法人税、住民税及び事業税及び法人税等調整額により、134,406千円（前期比32.0%）となりました。

なお、1株当たり当期純利益は15円26銭となりました。

(5) キャッシュ・フローの状況の分析

当連結会計年度における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前連結会計年度末に比べて661,169千円減少し、543,998千円となりました。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果得られた資金は、売上債権の増加及び棚卸資産の増加等があったものの、仕入債務の増加等により222,317千円（前年同期に得られた資金は1,505,358千円）となりました。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は、平成21年4月に八汐電気株式会社の株式を取得したことによる関係会社株式の取得及び平成21年9月に新設した蒲田営業所建物及び平成22年3月期に新設予定の熊本県熊本市の土地取得等に係る支払い等により410,876千円（前年同期に使用した資金は490,548千円）となりました。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果使用した資金は、借入金等の返済及び利益配当金の支払い等により、472,610千円（前年同期に使用した資金は440,377千円）となりました。

第3【設備の状況】

1【設備投資等の概要】

当企業グループでは、業容の拡大に向け323,611千円の設備投資を実施いたしました。

これは主に、平成21年9月に開設した蒲田営業所（東京都大田区）、及び平成22年9月に新設予定の熊本県熊本市の営業所用地取得等によるものであります。

なお、当連結会計年度において重要な設備の除却、売却はありません。

2【主要な設備の状況】

(1) 提出会社

当社は国内に53力所の営業所を有し、主要な設備の状況は、次のとおりであります。

平成22年3月31日現在

営業所名（所在地）	設備の内容	帳簿価額						従業員数（人）
		建物及び構築物（千円）	車両運搬具（千円）	土地（千円） （面積㎡）	リース資産（千円）	その他（千円）	合計（千円）	
本社 東京営業所 （東京都品川区）	統括業務施設 販売設備	48,467	2,682	84,000 (702.81)	141,240	575	276,965	35
城東営業所 （東京都葛飾区）	販売設備	6,742	861	327,151 (904.74)	-	36	334,791	8
千葉営業所 （千葉市中央区）	販売設備	42,775	945	277,745 (690.00)	-	264	321,732	8
大宮営業所 （さいたま市北区）	販売設備	17,173	3,367	175,000 (850.00)	-	245	195,786	11
横浜営業所 （横浜市神奈川区）	販売設備	11,001	990	50,178 (448.86)	-	269	62,439	7
静岡営業所 （静岡市駿河区）	販売設備	44,347	408	37,704 (836.35)	-	391	82,851	7
豊橋営業所 （愛知県豊橋市）	販売設備	10,403	875	12,030 (855.00)	-	302	23,612	8
名古屋営業所 （名古屋市中川区）	販売設備	2,628	730	28,654 (518.99)	-	193	32,206	5
札幌営業所 （札幌市中央区）	販売設備	55,851	1,897	20,833 (892.39)	-	438	79,022	10
仙台営業所 （仙台市若林区）	販売設備	46,821	1,878	27,408 (743.82)	-	380	76,488	9
多摩営業所 ほか42営業所等	販売設備等	2,197,191	40,429	5,364,480 (26,695.02)	-	25,627	7,627,729	233

（注）1．平成21年3月末帳簿価額によっております。

2．帳簿価額のうち「その他」は、工具・器具・備品であり、建設仮勘定は含んでおりません。

3．上記の他、リース契約による主な賃借設備は次のとおりであります。

名称	数量	リース期間（年）	年間リース料（千円）	リース契約残高（千円）
ネットワークシステム （所有権移転外ファイナンス・リース）	一式	6	6,988	6,393

(2) 国内子会社

平成22年3月31日現在

会社名	事業所名 (所在地)	設備の内容	帳簿価額					従業員数 (人)
			建物及び構 築物 (千円)	機械及び装 置 (千円)	土地 (千円) (面積㎡)	その他 (千円)	合計 (千円)	
㈱木村電気工業	本社等 (東京都北区)	統括業務設備等	73,461	11,644	136,477 (2,074.39)	5,376	226,959	33

(注) 1. 平成22年3月末帳簿価額によっております。

2. 帳簿価額のうち「その他」は、車両運搬具及び工具・器具・備品の合計であります。

3 【設備の新設、除却等の計画】

重要な設備の新設

会社名	所在地	設備の内容	投資予定額		資金調達方法	着手及び完成予定年月	
			総額 (千円)	既支払額 (千円)		着手	完成
提出会社	熊本県熊本市	販売設備	211,012	99,625	自己資金及び 借入金	平成21年8月	平成22年9月
提出会社	福岡県北九州市	販売設備	160,870	4,500	自己資金及び 借入金	平成22年3月	平成23年3月

第4【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	35,328,000
計	35,328,000

【発行済株式】

種類	事業年度末現在発行数 (株) (平成22年3月31日)	提出日現在発行数(株) (平成22年6月24日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	8,832,000	8,832,000	東京証券取引所 市場第一部	権利内容に何ら 限定のない当社 における標準と なる株式であ り、単元株式数 は100株であり ます。
計	8,832,000	8,832,000	-	-

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

平成22年2月1日以後に開始する事業年度に係る有価証券報告書から適用されるため、記載事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 (株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増 減額 (千円)	資本準備金残 高(千円)
平成16年9月16日 (注)1	100,000	8,832,000	31,500	1,073,200	31,406	951,153

(注)1. 第三者割当

発行株式数 100,000株
発行価格 671円
発行価額 629.06円
資本組入額 315円
払込金総額 62,906千円

(6) 【所有者別状況】

平成22年 3 月31日現在

区分	株式の状況 (1 単元の株式数100株)							単元未満株式の状況 (株)
	政府及び地方公共団体	金融機関	金融商品取引業者	その他の法人	外国法人等		個人その他	
					個人以外	個人		
株主数 (人)	-	25	23	48	17	1	3,084	3,198
所有株式数 (単元)	-	7,989	727	4,226	421	20	74,869	88,252
所有株式数の割合 (%)	-	9.05	0.82	4.79	0.48	0.02	84.84	100.00

(注) 自己株式23,348株は、「個人その他」に233単元及び「単元未満株式の状況」に48株を含めて記載しております。

(7) 【大株主の状況】

平成22年 3 月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合 (%)
河合 日出雄	東京都大田区	2,651	30.03
河合 きよ子	東京都大田区	264	3.00
日本トラスティ・サービス 信託銀行株式会社 (信託口)	東京都中央区晴海1-8-11	214	2.43
田中商事従業員持株会	東京都品川区南大井3-2-2	199	2.26
竹田 和平	愛知県名古屋市天白区	170	1.92
森田 健	東京都世田谷区	165	1.87
日本マスタートラスト信託 銀行株式会社 (信託口)	東京都港区浜松町2-11-3	118	1.35
河合 宏美	東京都大田区	114	1.30
三菱住環境システムズ株式会社	東京都台東区東上野4-10-3	77	0.87
野村信託銀行株式会社 (信託口)	東京都千代田区大手町2-2-2	69	0.78
計	-	4,045	45.81

(8) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成22年 3 月31日現在

区分	株式数 (株)	議決権の数 (個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式 (自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式 (その他)	-	-	-
完全議決権株式 (自己株式等)	普通株 23,300	-	-
完全議決権株式 (その他)	普通株式 8,801,900	88,019	-
単元未満株式	普通株式 6,800	-	-
発行済株式総数	8,832,000	-	-
総株主の議決権	-	88,019	-

【自己株式等】

平成22年3月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
田中商事株式会社	東京都品川区南大井3-2-2	23,300	-	23,300	0.26
計	-	23,300	-	23,300	0.26

(9) 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

2 【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】 会社法第155条第7号に該当する普通株式の取得

(1) 【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(2) 【取締役会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(3) 【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

区分	株式数(株)	価額の総額(円)
当事業年度における取得自己株式	92	38,756
当期間における取得自己株式	-	-

(注) 当期間における取得自己株式には、平成22年6月1日からこの有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りによる株式は含まれておりません。

(4) 【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

区分	当事業年度		当期間	
	株式数(株)	処分価額の総額(円)	株式数(株)	処分価額の総額(円)
引き受ける者の募集を行った取得自己株式	-	-	-	-
消却の処分を行った取得自己株式	-	-	-	-
合併、株式交換、会社分割に係る移転を行った取得自己株式	-	-	-	-
その他 (-)	-	-	-	-
保有自己株式数	23,348	-	-	-

(注) 当期間における保有自己株式には、平成22年6月1日からこの有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りによる株式は含まれておりません。

3【配当政策】

当社は、安定した経営基盤の確立を目指すとともに、株主の皆様に対する利益還元を経営の重要政策とした配当政策を実施しております。

内部留保資金につきましては、総合的な経営基盤の強化ならびに事業展開に必要な資金として有効に活用してまいりたいと考えております。

当社の剰余金の配当は、中間と期末の年2回実施する方針であり、中間配当については取締役会、期末配当については株主総会で決定致します。なお、中間配当は毎年9月30日を基準日として行うことができる旨を定款で定めております。

当事業年度につきましては、誠に遺憾ながら中間配当金は無配とさせて頂きましたが、期末配当金を1株当たり10円とし、年間の配当金1株当たり10円を実施することを決定いたしました。

当事業年度に係る剰余金の配当は以下のとおりであります。

決議年月日	配当金の総額 (千円)	1株当たり配当額 (円)
平成22年6月24日 定時株主総会決議	88,086	10

4【株価の推移】

(1)【最近5年間の事業年度別最高・最低株価】

回次	第45期	第46期	第47期	第48期	第49期
決算年月	平成18年3月	平成19年3月	平成20年3月	平成21年3月	平成22年3月
最高(円)	1,097	1,015	1,073	615	482
最低(円)	675	714	545	286	251

(注) 最高・最低株価は、東京証券取引所市場第一部におけるものであります。

(2)【最近6月間の月別最高・最低株価】

月別	平成21年10月	平成21年11月	平成21年12月	平成22年1月	平成22年2月	平成22年3月
最高(円)	461	410	355	290	357	355
最低(円)	392	317	330	251	321	318

(注) 最高・最低株価は、東京証券取引所市場第一部におけるものであります。

5【役員の状況】

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
代表取締役会長		河合 日出雄	昭和4年10月21日生	昭和25年10月 田中商店創業 昭和29年10月 (資) 田中商店設立代表社員 昭和37年12月 当社設立代表取締役社長就任 平成2年7月 代表取締役会長(現任)	(注)2	2,651
代表取締役社長兼仕入本部長		河合 勝彦	昭和27年8月21日生	昭和46年3月 当社入社 平成4年4月 首都圏第二営業部長 平成9年6月 取締役首都圏統括部長兼首都圏第二営業部長就任 平成10年4月 常務取締役営業本部長 平成12年4月 常務取締役営業本部長兼仕入部長 平成17年4月 常務取締役仕入本部長 平成19年6月 代表取締役社長兼仕入本部長(現任)	(注)2	23
取締役	営業本部長	鳥谷部 毅	昭和44年11月13日生	昭和63年6月 当社入社 平成20年4月 営業本部長 平成20年6月 取締役営業本部長就任(現任)	(注)2	7
取締役	管理本部長兼経理部長兼経営企画室長	春日 国敏	昭和45年1月27日生	平成6年4月 当社入社 平成17年4月 経営企画室長 平成20年6月 取締役経営企画室長就任 平成21年6月 取締役管理本部長兼経理部長兼経営企画室長(現任)	(注)2	1
取締役	総務部長	中川 純一	昭和23年11月2日生	昭和50年6月 当社入社 平成10年7月 総務部長 平成13年6月 取締役総務部長就任(現任)	(注)2	7
取締役	経営企画室担当	狩野 弘康	昭和32年6月24日生	昭和54年1月 当社入社 平成17年4月 東海営業部長 平成17年6月 取締役東海営業部長就任 平成18年8月 取締役経営企画室担当(現任) 平成21年4月 八汐電気株式会社代表取締役社長就任(現任)	(注)2	12
取締役	大阪地区担当部長兼大阪営業所長	奥田 実	昭和34年6月5日生	昭和54年1月 当社入社 平成17年4月 首都圏第一営業部長 平成17年6月 取締役首都圏第一営業部長就任 平成19年6月 常務取締役営業本部長 平成20年4月 取締役大阪地区担当部長兼大阪営業所長(現任)	(注)2	2
取締役	北海道営業部長兼札幌営業所長	木村 喜美勝	昭和28年2月22日生	昭和46年3月 当社入社 平成12年10月 北海道営業部長兼札幌営業所長 平成20年6月 取締役北海道営業部長兼札幌営業所長就任(現任)	(注)2	12
常勤監査役		石川 安信	昭和22年11月3日生	昭和41年3月 当社入社 平成2年4月 経理部長 平成7年6月 取締役経理部長就任 平成17年4月 取締役管理本部長兼経理部長 平成21年6月 常勤監査役就任(現任)	(注)3	28
監査役		福田 大助	昭和30年10月27日生	昭和55年4月 日本航空㈱入社 平成2年4月 第一東京弁護士会に弁護士登録 平成10年6月 当社監査役就任(現任)	(注)4	-
監査役		川本 典行	昭和30年4月8日生	昭和55年3月 唐沢公認会計士事務所入所 昭和57年12月 税理士資格取得 平成11年4月 川本会計事務所開設 平成16年2月 アールワイエヌケー有限公司設立 平成20年6月 当社監査役就任(現任)	(注)4	-
計						2,748

(注)1. 監査役福田大助及び同川本典行は、会社法第2条第16号に定める社外監査役であります。

2. 平成21年6月25日開催の定時株主総会の終結の時から2年間であります。

3. 平成21年6月25日開催の定時株主総会の終結の時から3年間であります。

4. 平成20年6月24日開催の定時株主総会の終結の時から4年間であります。

6【コーポレート・ガバナンスの状況等】

(1)【コーポレート・ガバナンスの状況】

企業統治の体制

イ．コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方

当社におけるコーポレート・ガバナンスに関する考え方は、「経営の透明性」、「責任の明確化」、「内部牽制機能」等を向上させ、公正な経営を実施することであると考える。

経営陣による企業内統治である内部統制については、金融庁草案に対応すべく、「業務の有効性及び効率性」、「財務報告の信頼性」、「業務に関わる法規の遵守」、「企業財産の保全」の4つを目的に内部統制システムの整備を進めております。

ロ．企業統治の体制の概要

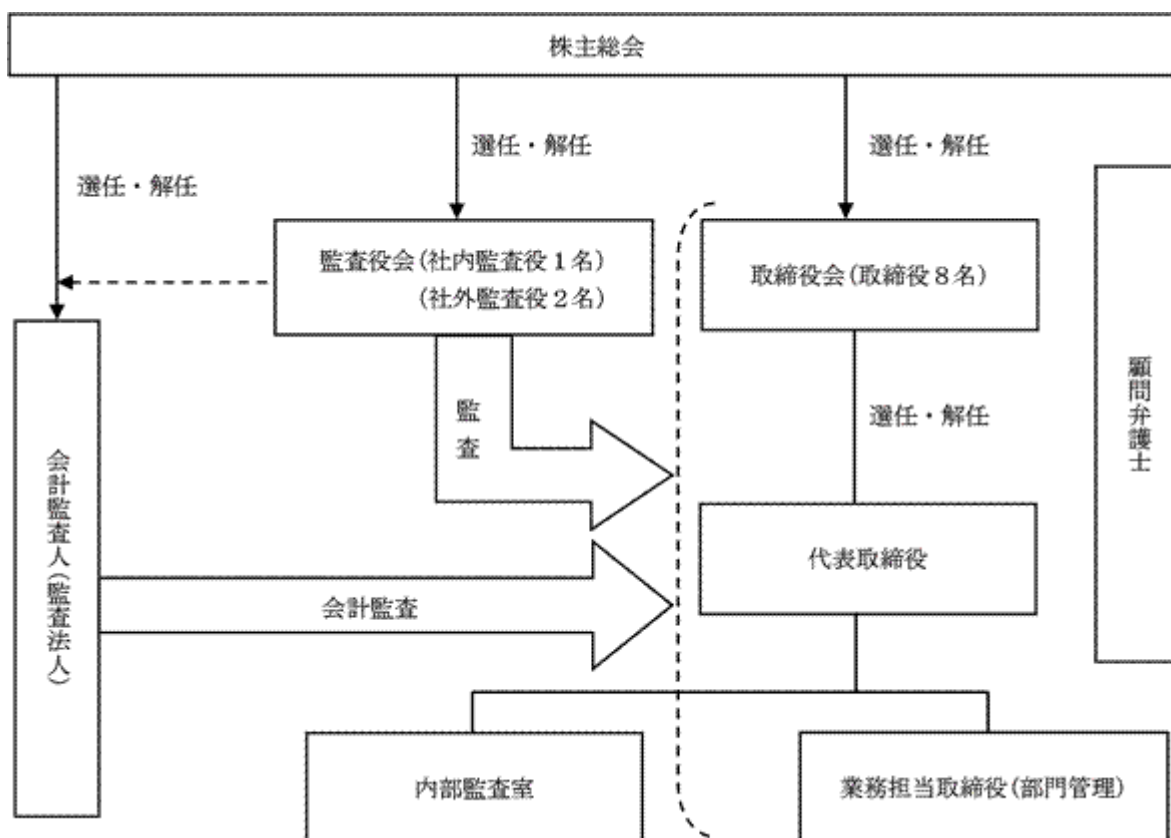
当社は、取締役会を経営の基本方針等の決定および業務執行状況を監督する機関と位置づけており、業務担当取締役により各部門への管理が即時に反映するよう心がけております。

監査役会制度を採用し、監査役3名中2名の社外監査役を選任しております。なお、社外監査役は、弁護士及び税理士を選任しております。

a．取締役会 取締役会は、毎月開催する定例取締役会の他に会社法に基づく臨時取締役会を必要に応じ開催し、業務執行方針等の決定及び各担当取締役による業務執行状況の報告を行っております。

b．監査役会 監査役会は、定例監査役会を毎月開催し、監査状況の把握及び監査役相互の意見交換等を行っております。
また、取締役会に出席し取締役の業務執行状況を監査するとともに、必要に応じ会計監査人と連携した監査等を実施しております。

八．会社の機関・内部統制の関係を表す図表



二．企業統治の体制を採用する理由

取締役8名にて、営業部門、管理部門、仕入部門の3本部体制で効率的に運営しております。また、監査役会を設置し、社外監査役2名がそれぞれ職歴、経験、知識等を活かし外部的視点から監査を行っており、取締役会においても監査役からの意見も取り入れ効率化および牽制を図っております。従って、経営の監視機能を充分に果たし得る客観性および中立性を確保していると考えております。

ホ．内部統制システムの整備の状況

当社は、平成18年5月の取締役会において、取締役の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制その他会社の業務の適正を確保するための体制の整備に関して「内部統制についての取締役会決議」を決議いたしました。

その内容の概要は、以下のとおりであります。

a．取締役・使用人の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制

企業倫理要領をはじめとするコンプライアンス体制にかかる規定を役職員が法令・定款及び社会規範を遵守した行動をとるための行動規範とします。また、その徹底を図るため、総務部においてコンプライアンスの取り組みを横断的に統括することとし、同部を中心に役職員教育等を行います。

内部監査室は、総務部と連携の上、コンプライアンスの状況を監視します。これらの活動は定期的に取締役会及び監査役会に報告されるものとします。法令上疑義のある行為について従業員が直接情報提供を行う手段としてホットラインを設置・運営します。

b．取締役の職務の執行に係る情報の保存及び管理に関する体制

文書取扱規程、文書保存規程、機密保持規程、その他文書及び情報に関する規程(以下、関連規程等という)に従い、取締役の職務執行に係る情報を文書または電磁的媒体(以下、文書等という)に記録し、保存します。取締役及び監査役は、関連規程等により、常時これらの文書などを閲覧できるものとします。

c．損失の危険の管理に関する規程その他の体制

コンプライアンス、災害、品質、情報セキュリティ等に係るリスクについては、それぞれの担当部署にて、規則・ガイドラインの制定、研修の実施、マニュアルの作成・配布等を行い、組織的横断的リスク状況の監視及び全社的対応は総務部が行います。新たに生じたリスクについては取締役会において速やかに対応責任者となる取締役を定めます。

d．取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制

取締役会は取締役、社員が共有する全社的な目標を定め、業務担当取締役はその目標達成のために各部門の具体的な目標及び会社の権限分配・意思決定ルールに基づく権限分配を含めた効率的な達成方法を定め、ITを活用して取締役会にて定期的に進捗状況をレビューし、改善を促すことを内容とする、全社的な業務の効率化を実現するシステムを構築します。

e．当社及び子会社から成る企業集団における業務の適正を確保するための体制

当社において、グループのセグメント別の事業に関して責任を負う取締役を任命し、法令遵守体制、リスク管理体制を構築する権限と責任を与え、本社管理本部はこれらを横断的に推進し、管理するシステムを構築します。

f．監査役がその職務を補助すべき使用人を置くことを求めた場合における当該使用人に関する体制ならびにその使用人の取締役からの独立性に関する事項

監査役は、内部監査室所属の職員に監査業務に必要な事項を命令することができるものとし、監査役より監査業務に必要な命令を受けた職員はその命令に関して、取締役、内部監査室長等の指揮命令を受けないものとします。

g．取締役及び使用人が監査役に報告するための体制、その他の監査役への報告に関する体制

取締役または使用人は、監査役会に対して、法定事項に加え、当社に重大な影響を及ぼす事項、内部監査の実施状況、コンプライアンス・ホットラインによる通報状況及びその内容を速やかに報告する体制を整備します。

報告の方法(報告者、報告受領者、報告時期等)については、取締役と監査役会との協議により決定する方法によります。

h．その他監査役の監査が実効的に行われることを確保するための体制

監査役会と代表取締役会長、代表取締役社長との間の定期的な意見交換会を設定します。

ヘ．リスク管理体制の整備の状況

当社は、経営の透明性及びコンプライアンスの遵守はコーポレート・ガバナンスの基本と考えており、取締役を担当責任者に据えるとともに企業倫理綱領を制定し、全社員に当該綱領を配布し、法令遵守の徹底等を図っております。

インサイダー取引防止については、インサイダー取引防止規程を定め、取締役をはじめ全社員に対し、自社株の売買許可制と会議等での教育を実施しております。

内部監査及び監査役監査の状況

当社の内部監査組織は、社長直轄の内部監査室で、担当人員２名で実施しております。

内部監査は、本社及び営業所を対象に継続して実施しており、対象部署に対し年１回の実施を原則としている定期監査と不定期に実施する特命監査があります。

会社の諸制度の運営状況と財政状態の実態を把握、検討するとともに、経理及び一般業務運営上の正確性の維持と合理化ならびに能率増進を図り、併せて事故、過誤の防止に資することを目的とし、内部監査規程に基づき実施されております。

監査役監査は、常勤監査役１名と非常勤監査役２名にて実施しております。

取締役会への出席、営業所等の監査を通じ、業務の意思決定や業務執行状況について法令及び定款に違反していないかの確認を監査役会規則及び監査役監査規程に基づき行っております。

監査役は、内部監査室にて実施する監査の状況及び同監査報告書の閲覧、また、必要に応じて監査担当者のヒヤリングを実施する等経理・業務・財産の管理状況等に係る監査状況を把握しております。

会計監査人とは、当該監査人が実施する本社・営業所等の監査時には同席する等連携を密にし、情報・意見の交換を図り、会計に係る適切な監査が実施できるように努めております。

なお、常勤監査役石川安信氏は、当社の取締役経理部長として平成７年６月から同21年６月まで就任し、通算14年にわたり決算手続ならびに財務諸表の作成等に從事しておりました。また、監査役川本典行氏は、税理士の資格を有しております。

社外取締役及び社外監査役

当社の社外監査役は２名であります。

２名の社外監査役と提出会社との人的関係、資本的關係または取引関係その他の利害関係はありません。

なお、社外監査役のうち、川本典行氏に関しては、経営陣から著しいコントロールを受けることがなく、また経営陣に対して著しいコントロールを及ぼしうる者でもないこと等から、一般株主と利益相反が生じるおそれがないと考えられるため、独立役員として指定致しました。

当社は社外監査役が取締役の業務執行について厳正な監査を行う立場であると心得ており、弁護士及び税理士の専門知識的見地から発言を頂いております。

社外監査役は、内部監査室にて実施する監査の状況及び同監査報告書の閲覧、必要に応じて監査担当者のヒヤリングを実施する等経理・業務・財産の管理状況等に係る監査状況を把握しております。監査役会においては、監査役会監査の実施状況の報告を受けるとともに、緻密な意見交換を行っております。会計監査人とは、当該監査人が実施する本社・営業所等の監査時には同席する等連携を密にし、情報・意見の交換を図り、会計に係る適切な監査が実施できるように努めております。

また、内部統制部門とも、必要に応じ情報・意見の交換を行っております。

当社は社外取締役を選任しておりません。当社は、経営の意思決定機能と、執行役員による業務執行を管理監督する機能を持つ取締役会に対し、監査役３名中の２名を社外監査役とすることで経営への監視機能を強化しています。コーポレート・ガバナンスにおいて、外部からの客観的、中立の経営監視の機能が重要と考えており、社外監査役２名による監査が実施されることにより、外部からの経営監視機能が十分に機能する体制が整っているため、現状の体制としております。

会計監査の状況

会社法及び金融商品取引法に基づく財務諸表等の監査は、東陽監査法人が行っております。

経理担当部署は、必要に応じて会計監査人と協議を行い、会計処理の透明性及び正確性の向上に努めております。

監査業務を執行した公認会計士の氏名

指定社員 石井 操

指定社員 小林 弥

監査業務に係る補助者

公認会計士 ２名

その他 ２名

役員報酬等

イ．役員区分ごとの報酬等の総額、報酬等の種類別の総額及び対象となる役員の員数

役員区分	報酬等の総額 (千円)	報酬等の種類別の総額(千円)				対象となる 役員の員数 (人)
		基本報酬	ストック オプション	賞与	退職慰労金	
取締役 (社外取締役を除く。)	81,260	67,960	-	-	13,300	9
監査役 (社外監査役を除く。)	3,440	3,240	-	-	200	2
社外役員	2,700	2,700	-	-	-	2

ロ．役員の報酬等の額又はその算定方法の決定に関する方針の内容及び決定方法

当社は役員の報酬等の額又はその算定方法の決定に関する方針は定めておりません。

株式の保有状況

イ．投資株式のうち保有目的が純投資目的以外の目的であるものの銘柄数及び貸借対照表計上額の合計額

4銘柄 41,798千円

ロ．保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式の銘柄、株式数、貸借対照表計上額及び保有目的

銘柄	株式数(株)	貸借対照表計上額 (千円)	保有目的
日東工業(株)	19	18,828	仕入取引関係の維持等
イワブチ(株)	7	3,059	仕入取引関係の維持等
アイホン(株)	6	11,111	仕入取引関係の維持等
岩崎電気(株)	50	8,800	仕入取引関係の維持等

取締役の員数

当社の取締役は10名以内とする旨を定款に定めております。

取締役の選任及び解任の決議要件

当社は、取締役の選任決議について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行う旨及び累積投票によらないものとする旨を定款に定めております。

また、取締役の解任決議については、議決権を行使することができる株主の議決権の過半数を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨を定款に定めております。

自己の株式の取得

当社は、機動的な資本政策を遂行するため、会社法第165条第2項の規定により、取締役会の決議によって市場取引等により自己の株式を取得することができる旨を定款に定めております。

中間配当

当社は、株主への機動的な利益還元を行うため、会社法第454条第5項の規定により、取締役会の決議をもって、毎年9月30日を基準日として中間配当をすることができる旨を定款に定めております。

取締役及び監査役の責任免除

当社は、職務を遂行するにあたり期待された役割を十分に発揮できるよう、会社法第426条第1項の規定により、同法第423条第1項の取締役（取締役であった者を含む。）及び監査役（監査役であった者を含む。）の損害賠償責任につき、善意でかつ重大な過失がない場合は、取締役会の決議によって、法令の定める範囲内で免除することができる旨を定款に定めております。

株主総会の特別決議案件

当社は、株主総会の円滑な運営を行うため、会社法第309条第2項に定める株主総会の特別決議は、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨を定款に定めております。

（２）【監査報酬の内容等】

【監査公認会計士等に対する報酬の内容】

区分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に基づく報酬（千円）	非監査業務に基づく報酬（千円）	監査証明業務に基づく報酬（千円）	非監査業務に基づく報酬（千円）
提出会社	16,000	-	18,000	-
連結子会社	-	-	-	-
計	16,000	-	18,000	-

【その他重要な報酬の内容】

該当事項はありません。

【監査公認会計士等の提出会社に対する非監査業務の内容】

該当事項はありません。

【監査報酬の決定方針】

該当事項はありません。

第5【経理の状況】

1．連結財務諸表及び財務諸表の作成方法について

(1) 当社の連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則（昭和51年大蔵省令第28号）」（以下「連結財務諸表規則」という。）に基づいて作成しております。

なお、前連結会計年度（平成20年4月1日から平成21年3月31日まで）は、改正前の連結財務諸表規則に基づき、当連結会計年度（平成21年4月1日から平成22年3月31日まで）は、改正後の連結財務諸表規則に基づいて作成しております。

(2) 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則（昭和38年大蔵省令第59号）」（以下「財務諸表等規則」という。）に基づいて作成しております。

なお、第48期事業年度（平成20年4月1日から平成21年3月31日まで）は、改正前の財務諸表等規則に基づき、第49期事業年度（平成21年4月1日から平成22年3月31日まで）は、改正後の財務諸表等規則に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、前連結会計年度（平成20年4月1日から平成21年3月31日まで）及び当連結会計年度（平成21年4月1日から平成22年3月31日まで）の連結財務諸表並びに第48期事業年度（平成20年4月1日から平成21年3月31日まで）及び第49期事業年度（平成21年4月1日から平成22年3月31日まで）の財務諸表について、東陽監査法人により監査を受けております。

3．連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みについて

当社は、連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みを行っております。具体的には、会計基準等の内容を適切に把握し、又は会計基準等の変更等についての的確に対応することができる体制を整備するため、公益財団法人財務会計基準機構へ加入し、同機構の行う研修へ参加しております。

1 【連結財務諸表等】
(1) 【連結財務諸表】
【連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成21年 3 月31日)	当連結会計年度 (平成22年 3 月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,205,168	543,998
受取手形及び売掛金	4,819,012	5,017,171
商品及び製品	1,128,573	1,242,527
原材料及び貯蔵品	112,916	114,195
繰延税金資産	61,645	62,358
その他	53,303	89,363
貸倒引当金	30,227	18,363
流動資産合計	7,350,391	7,051,252
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	5,542,788	5,667,834
減価償却累計額	2,962,293	3,111,764
建物及び構築物（純額）	2,580,495	2,556,070
土地	6,395,474	6,505,085
その他	780,085	944,019
減価償却累計額	660,639	701,565
その他（純額）	119,445	242,454
有形固定資産合計	9,095,415	9,303,610
無形固定資産		
借地権	183,254	183,254
その他	22,233	15,320
無形固定資産合計	205,488	198,575
投資その他の資産		
繰延税金資産	331,972	330,441
その他	258,243	351,622
貸倒引当金	125,895	127,770
投資その他の資産合計	464,320	554,292
固定資産合計	9,765,223	10,056,478
資産合計	17,115,615	17,107,730

	前連結会計年度 (平成21年 3 月31日)	当連結会計年度 (平成22年 3 月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	2,016,331	2,319,543
短期借入金	5,620,000	5,240,000
未払法人税等	205,574	114,256
賞与引当金	85,088	81,708
その他	273,680	247,702
流動負債合計	8,200,674	8,003,210
固定負債		
退職給付引当金	493,602	511,828
役員退職慰労引当金	248,800	246,600
その他	14,176	120,671
固定負債合計	756,578	879,099
負債合計	8,957,253	8,882,310
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,073,200	1,073,200
資本剰余金	951,153	951,153
利益剰余金	6,139,481	6,203,417
自己株式	13,452	13,491
株主資本合計	8,150,382	8,214,280
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	7,979	11,139
評価・換算差額等合計	7,979	11,139
純資産合計	8,158,362	8,225,420
負債純資産合計	17,115,615	17,107,730

【連結損益計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成20年 4 月 1 日 至 平成21年 3 月31日)	当連結会計年度 (自 平成21年 4 月 1 日 至 平成22年 3 月31日)
売上高	17,824,960	15,930,909
売上原価	14,480,989	13,228,624
売上総利益	3,343,971	2,702,285
販売費及び一般管理費	₁ 2,863,019	₁ 2,691,451
営業利益	480,952	10,834
営業外収益		
受取利息	1,767	494
仕入割引	300,685	266,097
その他	43,297	34,467
営業外収益合計	345,750	301,060
営業外費用		
支払利息	54,556	33,021
その他	14	55
営業外費用合計	54,570	33,076
経常利益	772,132	278,818
特別利益		
固定資産売却益	₂ 3,243	₂ 901
前期損益修正益	985	1,598
特別利益合計	4,228	2,500
特別損失		
固定資産除却損	₃ 531	₃ 358
固定資産売却損	₄ 1,147	₄ 561
特別損失合計	1,678	919
税金等調整前当期純利益	774,682	280,399
法人税、住民税及び事業税	326,103	147,282
法人税等調整額	29,135	1,289
法人税等合計	355,239	145,992
当期純利益	419,443	134,406

【連結株主資本等変動計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成20年 4 月 1 日 至 平成21年 3 月31日)	当連結会計年度 (自 平成21年 4 月 1 日 至 平成22年 3 月31日)
株主資本		
資本金		
前期末残高	1,073,200	1,073,200
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	1,073,200	1,073,200
資本剰余金		
前期末残高	951,153	951,153
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	951,153	951,153
利益剰余金		
前期末残高	5,896,217	6,139,481
当期変動額		
剰余金の配当	176,179	70,469
当期純利益	419,443	134,406
当期変動額合計	243,264	63,936
当期末残高	6,139,481	6,203,417
自己株式		
前期末残高	13,354	13,452
当期変動額		
自己株式の取得	97	38
当期変動額合計	97	38
当期末残高	13,452	13,491
株主資本合計		
前期末残高	7,907,215	8,150,382
当期変動額		
剰余金の配当	176,179	70,469
当期純利益	419,443	134,406
自己株式の取得	97	38
当期変動額合計	243,166	63,897
当期末残高	8,150,382	8,214,280

	前連結会計年度 (自 平成20年 4 月 1 日 至 平成21年 3 月31日)	当連結会計年度 (自 平成21年 4 月 1 日 至 平成22年 3 月31日)
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金		
前期末残高	15,143	7,979
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	7,164	3,160
当期変動額合計	7,164	3,160
当期末残高	7,979	11,139
評価・換算差額等合計		
前期末残高	15,143	7,979
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	7,164	3,160
当期変動額合計	7,164	3,160
当期末残高	7,979	11,139
純資産合計		
前期末残高	7,922,359	8,158,362
当期変動額		
剰余金の配当	176,179	70,469
当期純利益	419,443	134,406
自己株式の取得	97	38
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	7,164	3,160
当期変動額合計	236,002	67,058
当期末残高	8,158,362	8,225,420

【連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成20年 4月 1日 至 平成21年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前当期純利益	774,682	280,399
減価償却費	216,044	226,760
のれん償却額	12,226	6,113
貸倒引当金の増減額（ は減少）	17,349	9,988
賞与引当金の増減額（ は減少）	71,594	3,379
退職給付引当金の増減額（ は減少）	10,543	18,226
役員退職慰労引当金の増減額（ は減少）	6,100	2,200
受取利息及び受取配当金	2,966	994
支払利息	54,556	33,021
固定資産除売却損益（ は益）	1,564	18
売上債権の増減額（ は増加）	1,181,799	195,474
たな卸資産の増減額（ は増加）	242,217	115,233
差入保証金の増減額（ は増加）	1,100	160
その他の資産の増減額（ は増加）	18,300	43,973
仕入債務の増減額（ は減少）	457,545	309,425
その他の負債の増減額（ は減少）	86,125	14,788
未払消費税等の増減額（ は減少）	27,198	28,533
小計	1,919,035	488,815
利息及び配当金の受取額	2,966	994
利息の支払額	54,659	33,342
法人税等の支払額	361,984	234,149
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,505,358	222,317
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形及び無形固定資産の取得による支出	495,416	323,611
有形及び無形固定資産の売却による収入	5,168	2,104
関係会社株式の取得による支出	-	89,178
貸付けによる支出	2,385	51,278
貸付金の回収による収入	1,247	51,992
その他の支出	2,378	3,010
その他の収入	3,216	2,105
投資活動によるキャッシュ・フロー	490,548	410,876
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額（ は減少）	90,000	380,000
長期借入金の返済による支出	64,000	-
社債の償還による支出	110,000	-
リース債務の返済による支出	-	21,401
自己株式の取得による支出	97	38
配当金の支払額	176,280	71,170
財務活動によるキャッシュ・フロー	440,377	472,610
現金及び現金同等物の増減額（ は減少）	574,432	661,169
現金及び現金同等物の期首残高	630,735	1,205,168
現金及び現金同等物の期末残高	1,205,168	543,998

【連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項】

項目	前連結会計年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)
1. 連結の範囲に関する事項	連結子会社の数 1社 連結子会社の名称 株式会社木村電気工業	(1) 連結子会社の数 1社 連結子会社の名称 株式会社木村電気工業 (2) 非連結子会社の数 1社 非連結子会社の名称 八汐電気株式会社 連結の範囲から除いた理由 非連結子会社は、小規模であり、総資産、 売上高、当期純損益及び利益剰余金等は、 いずれも連結財務諸表に重要な影響を及 ぼしていないためであります。
2. 持分法の適用に関する事項	持分法の適用会社はありません。	持分法を適用しない非連結子会社の名称 八汐電気株式会社 持分法を適用しない理由 持分法非適用会社は、当期純損益及び利 益剰余金等に及ぼす影響が軽微であり、 かつ全体としても重要性がないため、持 分法の適用範囲から除外しております。
3. 連結子会社の事業年度等 に関する事項	連結子会社の事業年度の末日は、連結決算 日と一致しております。	同左
4. 会計処理基準に関する事項 (1) 重要な資産の評価基準 及び評価方法	有価証券 その他有価証券 時価のあるもの 連結決算日の市場価格等に基づく時 価法（評価差額は全部純資産直入法に より処理し、売却原価は移動平均法に より算定）を採用しております。 たな卸資産 評価基準は原価法（収益性の低下によ る簿価切下げの方法）によっておりま す。 イ．商品・製品・原材料 移動平均法 ロ．貯蔵品 最終仕入原価法 (会計方針の変更) 当連結会計年度より「棚卸資産の評価に 関する会計基準」（企業会計基準第9号 平成18年7月5日公表分）を適用して おります。 これによる損益への影響はありません。	有価証券 その他有価証券 時価のあるもの 同左 たな卸資産 同左

項目	前連結会計年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)
(2) 重要な減価償却資産の 減価償却の方法	<p>有形固定資産（リース資産を除く） 定率法を採用しております。 ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物（附属設備を除く）については定額法を採用しております。 なお、主な耐用年数は次のとおりであります。 建物 10年～50年</p> <p>（追加情報） 連結子会社の機械装置については、従来、耐用年数を10年としておりましたが、当連結会計年度より8年に変更しております。これは、平成20年度の税制改正を契機に耐用年数を見直したことによるものであります。 これによる損益への影響は軽微であります。</p> <p>無形固定資産（リース資産を除く） 定額法を採用しております。 長期前払費用 定額法を採用しております。 リース資産 リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。 なお、所有権移転外ファイナンス・リース取引のうち、リース取引開始日が適用初年度開始前のリース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっております。</p>	<p>有形固定資産（リース資産を除く） 同左</p> <p>無形固定資産 同左</p> <p>長期前払費用 同左</p> <p>リース資産 同左</p>

項目	前連結会計年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)
(3) 重要な引当金の計上基準	<p>貸倒引当金 債権の貸倒による損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。</p> <p>賞与引当金 従業員に支給する賞与の支払に備えるため、支給見込額基準により計上しております。</p> <p>退職給付引当金 従業員の退職給付に備えるため、当連結会計年度末における退職給付債務の見込額に基づき計上しております。</p> <p>なお、会計基準変更時差異については、15年による按分額を費用計上しております。</p> <p>数理計算上の差異は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（5年）による定額法により翌連結会計年度から処理することとしております。</p> <p>役員退職慰労引当金 役員の退職慰労金の支給に備えるため、内規に基づく当連結会計年度末要支給額を計上しております。</p>	<p>貸倒引当金 同左</p> <p>賞与引当金 同左</p> <p>退職給付引当金 同左</p> <p>(会計方針の変更) 当連結会計年度より「「退職給付に係る会計基準」の一部改正(その3)」(企業会計基準第19号 平成20年7月31日)を適用しております。 これによる損益への影響はありません。 役員退職慰労引当金 同左</p>
(4) その他連結財務諸表作成のための重要な事項	消費税等の会計処理 税抜方式によっております。	消費税等の会計処理 同左
5. 連結子会社の資産及び負債の評価に関する事項	連結子会社の資産及び負債の評価については、全面時価評価法を採用しております。	同左
6. のれん及び負ののれんの償却に関する事項	のれんは、取得時の子会社の事業計画、業績の推移を検討のうえ、個別に合理的な期間（3年）を設定し、均等償却しております。	同左
7. 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲	手許現金、随時引き出し可能な預金及び容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なリスクしか負わない取得日から3カ月以内に償還期限の到来する短期投資からなっております。	同左

【連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項の変更】

前連結会計年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)
<p>(リース取引に関する会計基準)</p> <p>所有権移転外ファイナンス・リース取引については、従来、賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっておりましたが、当連結会計年度より「リース取引に関する会計基準」(企業会計基準第13号(平成5年6月17日(企業会計審議会第一部会)、平成19年3月30日改正))及び「リース取引に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第16号(平成6年1月18日(日本公認会計士協会 会計制度委員会)、平成19年3月30日改正))を適用し、通常の売買取引に係る方法に準じた会計処理によっております。</p> <p>なお、リース取引開始日が適用初年度開始前の所有権移転外ファイナンス・リース取引については、引き続き通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理を適用しております。</p> <p>これによる損益への影響はありません。</p>	

【表示方法の変更】

前連結会計年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)
<p>(連結貸借対照表)</p> <p>「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則等の一部を改正する内閣府令」(平成20年8月7日 内閣府令第50号)が適用となることに伴い、前連結会計年度において、「たな卸資産」として掲記されていたものは、当連結会計年度から「商品及び製品」「原材料及び貯蔵品」に区分掲記しております。なお、前連結会計年度の「たな卸資産」に含まれる「商品及び製品」「原材料及び貯蔵品」は、それぞれ1,364,428千円、119,278千円であります。</p>	

【注記事項】

(連結貸借対照表関係)

前連結会計年度 (平成21年3月31日)	当連結会計年度 (平成22年3月31日)
1. 受取手形裏書譲渡高は、2,674千円であります。 2. 無形固定資産の「その他」には、のれん6,113千円が含まれております。	1. 受取手形裏書譲渡高は、1,578千円であります。 3. 投資その他の資産の「その他」には、非連結子会社株式89,178千円が含まれております。

(連結損益計算書関係)

前連結会計年度 (自平成20年4月1日 至平成21年3月31日)	当連結会計年度 (自平成21年4月1日 至平成22年3月31日)
1. 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。	1. 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。
運賃 29,608千円	運賃 29,079千円
貸倒引当金繰入額 49,026	貸倒引当金繰入額 9,988
役員報酬 87,611	貸倒損失 791
給料 1,380,671	役員報酬 73,753
賞与 77,845	給料 1,356,618
賞与引当金繰入額 80,508	賞与 71,410
退職給付費用 64,347	賞与引当金繰入額 74,653
役員退職慰労引当金繰入額 14,300	退職給付費用 67,991
福利厚生費 233,909	役員退職慰労引当金繰入額 13,500
支払手数料 109,377	福利厚生費 223,378
租税公課 119,705	支払手数料 105,779
減価償却費 203,114	租税公課 114,273
不動産賃借料 88,038	減価償却費 214,747
通信費 53,525	不動産賃借料 88,034
修繕費 29,623	通信費 52,123
燃料費 69,255	修繕費 33,661
消耗品費 26,378	燃料費 55,099
水道光熱費 50,699	消耗品費 26,342
	水道光熱費 46,508
2. 固定資産売却益の内訳は次のとおりであります。	2. 固定資産売却益の内訳は次のとおりであります。
機械及び装置 662千円	機械及び装置 90千円
車両運搬具 2,580	車両運搬具 809
計 3,243	計 901
3. 固定資産除却損の内容は次のとおりであります。	3. 固定資産除却損の内容は次のとおりであります。
建物及び構築物 208千円	車両運搬具 141千円
車両運搬具 255	工具・器具・備品 216
工具・器具・備品 66	計 358
計 531	
4. 固定資産売却損の内容は次のとおりであります。	4. 固定資産売却損の内容は次のとおりであります。
車両運搬具 1,147千円	車両運搬具 561千円

(連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度(自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	前連結会計年度 末株式数(株)	当連結会計年度 増加株式数(株)	当連結会計年度 減少株式数(株)	当連結会計年度 末株式数(株)
発行済株式				
普通株式	8,832,000	-	-	8,832,000
合計	8,832,000	-	-	8,832,000
自己株式				
普通株式(注)	23,018	238	-	23,256
合計	23,018	238	-	23,256

(注) 普通株式の自己株式の株式数の増加238株は、単元未満株式の買取りによる増加であります。

2. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成20年6月24日 定時株主総会	普通株式	123,325	14	平成20年3月31日	平成20年6月25日
平成20年11月10日 取締役会	普通株式	52,853	6	平成20年9月30日	平成20年12月9日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	配当の原資	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成21年6月25日 定時株主総会	普通株式	70,469	利益剰余金	8	平成21年3月31日	平成21年6月26日

当連結会計年度(自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	前連結会計年度 末株式数(株)	当連結会計年度 増加株式数(株)	当連結会計年度 減少株式数(株)	当連結会計年度 末株式数(株)
発行済株式				
普通株式	8,832,000	-	-	8,832,000
合計	8,832,000	-	-	8,832,000
自己株式				
普通株式(注)	23,256	92	-	23,348
合計	23,256	92	-	23,348

(注) 普通株式の自己株式の株式数の増加92株は、単元未満株式の買取りによる増加であります。

２．配当に関する事項

(１) 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成21年6月25日 定時株主総会	普通株式	70,469	8	平成21年3月31日	平成21年6月26日

(２) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	配当の原資	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成22年6月24日 定時株主総会	普通株式	88,086	利益剰余金	10	平成22年3月31日	平成22年6月25日

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

前連結会計年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)												
<p>1. 現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係</p> <p>(平成21年3月31日現在)</p> <table> <tr> <td>現金及び預金勘定</td><td>1,205,168千円</td></tr> <tr> <td>預入期間が3カ月を超える定期預金等</td><td>-</td></tr> <tr> <td>現金及び現金同等物</td><td>1,205,168</td></tr> </table>	現金及び預金勘定	1,205,168千円	預入期間が3カ月を超える定期預金等	-	現金及び現金同等物	1,205,168	<p>1. 現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係</p> <p>(平成22年3月31日現在)</p> <table> <tr> <td>現金及び預金勘定</td><td>543,998千円</td></tr> <tr> <td>預入期間が3カ月を超える定期預金等</td><td>-</td></tr> <tr> <td>現金及び現金同等物</td><td>543,998</td></tr> </table>	現金及び預金勘定	543,998千円	預入期間が3カ月を超える定期預金等	-	現金及び現金同等物	543,998
現金及び預金勘定	1,205,168千円												
預入期間が3カ月を超える定期預金等	-												
現金及び現金同等物	1,205,168												
現金及び預金勘定	543,998千円												
預入期間が3カ月を超える定期預金等	-												
現金及び現金同等物	543,998												

(リース取引関係)

前連結会計年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)				当連結会計年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)			
1. ファイナンス・リース取引(借主側) 所有権移転外ファイナンス・リース取引 リース資産の内容 該当事項はありません。 リース資産の減価償却の方法 連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項 「4. 会計処理基準に関する事項 (2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法」に記載のとおりであります。 なお、所有権移転外ファイナンス・リース取引のうち、リース取引開始日が、平成20年3月31日以前のリース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっており、その内容は次のとおりであります。 (1) リース物件の取得価額相当額、減価償却累計額相当額、減損損失累計額相当額及び期末残高相当額				1. ファイナンス・リース取引(借主側) 所有権移転外ファイナンス・リース取引 リース資産の内容 有形固定資産 リース資産の減価償却の方法 同左 (1) リース物件の取得価額相当額、減価償却累計額相当額、減損損失累計額相当額及び期末残高相当額			
	取得価額相当額 (千円)	減価償却累計額相当額 (千円)	期末残高相当額 (千円)		取得価額相当額 (千円)	減価償却累計額相当額 (千円)	期末残高相当額 (千円)
機械及び装置	15,422	14,137	1,285	機械及び装置	15,422	15,422	-
工具・器具・備品	28,518	16,421	12,097	工具・器具・備品	28,518	22,124	6,393
合計	43,941	30,558	13,382	合計	43,941	37,547	6,393
(注) 取得価額相当額は、未経過リース料期末残高が有形固定資産の期末残高等に占める割合が低いため、支払利子込み法により算定しております。 (2) 未経過リース料期末残高相当額等 未経過リース料期末残高相当額 1年内 6,988千円 1年超 6,393 合計 13,382 (注) 未経過リース料期末残高相当額は、未経過リース料期末残高が有形固定資産の期末残高等に占める割合が低いため、支払利子込み法により算定しております。 (3) 支払リース料、リース資産減損勘定の取崩額、減価償却費相当額、減価償却費相当額及び減損損失 支払リース料 8,274千円 減価償却費相当額 8,274 (4) 減価償却費相当額の算定方法 リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。 (減損損失について) リース資産に配分された減損損失はありません。				同左 (2) 未経過リース料期末残高相当額等 未経過リース料期末残高相当額 1年内 5,301千円 1年超 1,092 合計 6,393 同左 (3) 支払リース料、リース資産減損勘定の取崩額、減価償却費相当額、減価償却費相当額及び減損損失 支払リース料 6,988千円 減価償却費相当額 6,988 (4) 減価償却費相当額の算定方法 同左 (減損損失について) 同左			

(金融商品関係)

当連結会計年度(自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)

1. 金融商品の状況に関する事項

(1)金融商品に対する取組方針

当企業グループは、主に電設資材の卸売りを行うため、運転資金及び設備投資計画に照らして、必要な資金を調達しております。また、資金調達については資本コスト等を考慮し、原則銀行借入による方針です。

(2)金融商品の内容及びそのリスク

営業債権である受取手形及び売掛金は、顧客の信用リスクに晒されております。

投資有価証券は、業務上の関係を有する企業の株式であり、市場価格の変動リスクに晒されております。

営業債務である支払手形及び買掛金は、そのほとんどが3ヶ月以内の支払期日であります。

短期借入金は、主に運転資金及び設備投資に係る資金調達を目的としたものであり、金利の変動リスクに晒されております。

(3)金融商品に係るリスク管理体制

信用リスク(取引先の契約不履行等に係るリスク)の管理

当社は、営業管理規程に従い、営業債権について、管理部門における営業管理室が主要な取引先の状況を定期的にモニタリングし、取引相手ごとに期日及び残高を管理するとともに、財務状況等の悪化等による回収懸念の早期把握や軽減を図っております。

市場リスク(為替や金利等の変動リスク)の管理

投資有価証券については、定期的に時価や発行体(取引先企業)の財務状況等を把握しております。

資金調達に係る流動性リスク(支払期日に支払いを実行できなくなるリスク)の管理

当社は、各部署からの報告に基づき経理部が適時に資金繰計画を作成・更新するとともに、手許流動性の維持などにより流動性リスクを管理しております。

(4)金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することがあります。

2. 金融商品の時価等に関する事項

平成22年3月31日における連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは含まれておりません(注)2.参照)。

	連結貸借対照表計上額 (千円)	時価(千円)	差額(千円)
(1) 現金及び預金	543,998	543,998	-
(2) 受取手形及び売掛金	5,017,171	5,017,171	-
(3) 投資有価証券	41,798	41,798	-
資産計	5,602,968	5,602,968	-
(1) 支払手形及び買掛金	2,319,543	2,319,543	-
(2) 短期借入金	5,240,000	5,240,000	-
(3) 未払法人税等	114,256	114,256	-
負債計	7,673,799	7,673,799	-

(注)1. 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券に関する事項

資 産

(1) 現金及び預金、(2) 受取手形及び売掛金

これらは短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(3) 投資有価証券

時価について、株式等は取引所の価格によっております。また、保有目的ごとの有価証券に関する事項については、注記事項「有価証券関係」をご参照下さい。

負債

(1)支払手形及び買掛金、(2)短期借入金、(3)未払法人税等

これらは短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

2. 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

区分	連結貸借対照表計上額(千円)
非上場株式	7,000

市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、「(3)投資有価証券」には含めておりません。

3. 金銭債権及び満期のある有価証券の連結決算日後の償還予定額

	1年以内 (千円)	1年超 5年以内 (千円)	5年超 10年以内 (千円)	10年超 (千円)
現金及び預金	543,998	-	-	-
受取手形及び売掛金	5,017,171	-	-	-
合計	5,561,169	-	-	-

(追加情報)

当連結会計年度より改正された「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号 平成20年3月10日)及び「金融商品の時価等の開示に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第19号 平成20年3月10日)を適用しております。

(有価証券関係)

前連結会計年度(平成21年3月31日)

1. その他有価証券で時価のあるもの

	種類	取得原価 (千円)	連結貸借対 照表計上額 (千円)	差額(千円)
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	(1)株式	12,496	28,631	16,135
	(2)債券	-	-	-
	(3)その他	-	-	-
	小計	12,496	28,631	16,135
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの	(1)株式	10,735	7,900	2,835
	(2)債券	-	-	-
	(3)その他	-	-	-
	小計	10,735	7,900	2,835
合計		23,232	36,531	13,299

2. 時価評価されていない主な有価証券の内容

	連結貸借対照表計上額(千円)
その他有価証券 非上場株式	7,000

当連結会計年度（平成22年3月31日）

１．その他有価証券

	種類	連結貸借対 照表計上額 （千円）	取得原価 （千円）	差額（千円）
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	(1) 株式	32,998	12,496	20,502
	(2) 債券	-	-	-
	(3) その他	-	-	-
	小計	32,998	12,496	20,502
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの	(1) 株式	8,800	10,735	1,935
	(2) 債券	-	-	-
	(3) その他	-	-	-
	小計	8,800	10,735	1,935
合計		41,798	23,232	18,566

（注）非上場株式（連結貸借対照表計上額 7,000千円）については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「その他有価証券」には含めておりません。

（デリバティブ取引関係）

前連結会計年度（自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日）

当社グループはデリバティブ取引を全く行っておりませんので、該当事項はありません。

当連結会計年度（自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日）

当社グループはデリバティブ取引を全く行っておりませんので、該当事項はありません。

(退職給付関係)

1. 採用している退職給付制度の概要

当社グループは、退職一時金制度を採用しております。

2. 退職給付債務及びその内訳

	前連結会計年度 (平成21年3月31日)	当連結会計年度 (平成22年3月31日)
(1) 退職給付債務(千円)	795,732	1,025,400
(2) 会計基準変更時差異の未処理額(千円)	327,451	272,876
(3) 未認識数理計算上の差異(千円)	25,322	240,695
(4) 退職給付引当金(千円)	493,602	511,828

(注) 連結子会社は、退職給付債務の算定にあたり、簡便法を採用しております。

3. 退職給付費用の内訳

	前連結会計年度 (自平成20年4月1日 至平成21年3月31日)	当連結会計年度 (自平成21年4月1日 至平成22年3月31日)
(1) 勤務費用(千円)	56,875	56,075
(2) 利息費用(千円)	13,200	13,263
(3) 会計基準変更時差異の処理額(千円)	54,575	54,575
(4) 数理計算上の差異の処理額(千円)	58,944	54,566
(5) 退職給付費用(千円)	65,706	69,348

(注) 簡便法を採用している連結子会社の退職給付費用は、「(1) 勤務費用」に計上しております。

4. 退職給付債務等の計算の基礎に関する事項

	前連結会計年度 (平成21年3月31日)	当連結会計年度 (平成22年3月31日)
(1) 割引率(%)	1.7	1.7
(2) 退職給付見込額の期間配分方法	期間定額基準	期間定額基準
(3) 数理計算上の差異の処理年数(年)	5	5
(4) 会計基準変更時差異の処理年数(年)	15	15

(ストック・オプション等関係)

前連結会計年度(自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)

当社グループはストックオプション等を付与しておりませんので、該当事項はありません。

当連結会計年度(自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)

当社グループはストックオプション等を付与しておりませんので、該当事項はありません。

(税効果会計関係)

前連結会計年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)																																																																																								
<p>1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳</p> <p>繰延税金資産</p> <table> <tr> <td>退職給付引当金</td><td>197,373千円</td></tr> <tr> <td>役員退職慰労引当金</td><td>99,520</td></tr> <tr> <td>貸倒引当金</td><td>28,205</td></tr> <tr> <td>賞与引当金</td><td>34,223</td></tr> <tr> <td>未払事業税否認額</td><td>15,563</td></tr> <tr> <td>連結土地評価差額</td><td>15,381</td></tr> <tr> <td>その他</td><td>19,042</td></tr> <tr> <td>小計</td><td>409,310</td></tr> <tr> <td>評価性引当金</td><td>9,674</td></tr> <tr> <td>繰延税金資産合計</td><td>399,636</td></tr> </table> <p>繰延税金負債</p> <table> <tr> <td>その他有価証券評価差額金</td><td>5,319</td></tr> <tr> <td>その他</td><td>699</td></tr> <tr> <td>繰延税金負債合計</td><td>6,018</td></tr> <tr> <td>繰延税金資産の純額</td><td>393,617</td></tr> </table> <p>繰延税金資産の純額は、連結貸借対照表の以下の項目に含まれております。</p> <table> <tr> <td>流動資産 - 繰延税金資産</td><td>61,645千円</td></tr> <tr> <td>固定資産 - 繰延税金資産</td><td>331,972</td></tr> </table> <p>2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因の内訳</p> <table> <tr> <td>法定実効税率</td><td>40%</td></tr> <tr> <td>(調整)</td><td></td></tr> <tr> <td>交際費等永久に損金に算入されない項目</td><td>0.2</td></tr> <tr> <td>住民税均等割</td><td>3.6</td></tr> <tr> <td>その他</td><td>2.0</td></tr> <tr> <td>税効果会計適用後の法人税等の負担率</td><td>45.9</td></tr> </table>	退職給付引当金	197,373千円	役員退職慰労引当金	99,520	貸倒引当金	28,205	賞与引当金	34,223	未払事業税否認額	15,563	連結土地評価差額	15,381	その他	19,042	小計	409,310	評価性引当金	9,674	繰延税金資産合計	399,636	その他有価証券評価差額金	5,319	その他	699	繰延税金負債合計	6,018	繰延税金資産の純額	393,617	流動資産 - 繰延税金資産	61,645千円	固定資産 - 繰延税金資産	331,972	法定実効税率	40%	(調整)		交際費等永久に損金に算入されない項目	0.2	住民税均等割	3.6	その他	2.0	税効果会計適用後の法人税等の負担率	45.9	<p>1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳</p> <p>繰延税金資産</p> <table> <tr> <td>退職給付引当金</td><td>204,819千円</td></tr> <tr> <td>役員退職慰労引当金</td><td>98,640</td></tr> <tr> <td>貸倒引当金</td><td>20,759</td></tr> <tr> <td>賞与引当金</td><td>32,806</td></tr> <tr> <td>未払事業税否認額</td><td>8,932</td></tr> <tr> <td>連結土地評価差額</td><td>15,381</td></tr> <tr> <td>その他</td><td>29,238</td></tr> <tr> <td>小計</td><td>410,577</td></tr> <tr> <td>評価性引当金</td><td>9,674</td></tr> <tr> <td>繰延税金資産合計</td><td>400,903</td></tr> </table> <p>繰延税金負債</p> <table> <tr> <td>その他有価証券評価差額金</td><td>7,426</td></tr> <tr> <td>その他</td><td>677</td></tr> <tr> <td>繰延税金負債合計</td><td>8,103</td></tr> <tr> <td>繰延税金資産の純額</td><td>392,799</td></tr> </table> <p>繰延税金資産の純額は、連結貸借対照表の以下の項目に含まれております。</p> <table> <tr> <td>流動資産 - 繰延税金資産</td><td>62,358千円</td></tr> <tr> <td>固定資産 - 繰延税金資産</td><td>330,441</td></tr> </table> <p>2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因の内訳</p> <table> <tr> <td>法定実効税率</td><td>40%</td></tr> <tr> <td>(調整)</td><td></td></tr> <tr> <td>交際費等永久に損金に算入されない項目</td><td>0.4</td></tr> <tr> <td>住民税均等割</td><td>10.7</td></tr> <tr> <td>その他</td><td>0.9</td></tr> <tr> <td>税効果会計適用後の法人税等の負担率</td><td>52.1</td></tr> </table>	退職給付引当金	204,819千円	役員退職慰労引当金	98,640	貸倒引当金	20,759	賞与引当金	32,806	未払事業税否認額	8,932	連結土地評価差額	15,381	その他	29,238	小計	410,577	評価性引当金	9,674	繰延税金資産合計	400,903	その他有価証券評価差額金	7,426	その他	677	繰延税金負債合計	8,103	繰延税金資産の純額	392,799	流動資産 - 繰延税金資産	62,358千円	固定資産 - 繰延税金資産	330,441	法定実効税率	40%	(調整)		交際費等永久に損金に算入されない項目	0.4	住民税均等割	10.7	その他	0.9	税効果会計適用後の法人税等の負担率	52.1
退職給付引当金	197,373千円																																																																																								
役員退職慰労引当金	99,520																																																																																								
貸倒引当金	28,205																																																																																								
賞与引当金	34,223																																																																																								
未払事業税否認額	15,563																																																																																								
連結土地評価差額	15,381																																																																																								
その他	19,042																																																																																								
小計	409,310																																																																																								
評価性引当金	9,674																																																																																								
繰延税金資産合計	399,636																																																																																								
その他有価証券評価差額金	5,319																																																																																								
その他	699																																																																																								
繰延税金負債合計	6,018																																																																																								
繰延税金資産の純額	393,617																																																																																								
流動資産 - 繰延税金資産	61,645千円																																																																																								
固定資産 - 繰延税金資産	331,972																																																																																								
法定実効税率	40%																																																																																								
(調整)																																																																																									
交際費等永久に損金に算入されない項目	0.2																																																																																								
住民税均等割	3.6																																																																																								
その他	2.0																																																																																								
税効果会計適用後の法人税等の負担率	45.9																																																																																								
退職給付引当金	204,819千円																																																																																								
役員退職慰労引当金	98,640																																																																																								
貸倒引当金	20,759																																																																																								
賞与引当金	32,806																																																																																								
未払事業税否認額	8,932																																																																																								
連結土地評価差額	15,381																																																																																								
その他	29,238																																																																																								
小計	410,577																																																																																								
評価性引当金	9,674																																																																																								
繰延税金資産合計	400,903																																																																																								
その他有価証券評価差額金	7,426																																																																																								
その他	677																																																																																								
繰延税金負債合計	8,103																																																																																								
繰延税金資産の純額	392,799																																																																																								
流動資産 - 繰延税金資産	62,358千円																																																																																								
固定資産 - 繰延税金資産	330,441																																																																																								
法定実効税率	40%																																																																																								
(調整)																																																																																									
交際費等永久に損金に算入されない項目	0.4																																																																																								
住民税均等割	10.7																																																																																								
その他	0.9																																																																																								
税効果会計適用後の法人税等の負担率	52.1																																																																																								

(セグメント情報)

【事業の種類別セグメント情報】

前連結会計年度(自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)

電設資材卸売業の売上高、営業利益及び資産の金額は、全セグメントの売上高の合計、営業利益及び全セグメントの資産の金額の合計額に占める割合がいずれも90%超であるため、事業の種類別セグメント情報の記載を省略しております。

当連結会計年度(自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)

電設資材卸売業の売上高、営業利益及び資産の金額は、全セグメントの売上高の合計、営業利益及び全セグメントの資産の金額の合計額に占める割合がいずれも90%超であるため、事業の種類別セグメント情報の記載を省略しております。

【所在地別セグメント情報】

前連結会計年度(自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)

本邦以外の国又は地域に所在する連結子会社及び在外支店がないため、該当事項はありません。

当連結会計年度(自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)

本邦以外の国又は地域に所在する連結子会社及び在外支店がないため、該当事項はありません。

【海外売上高】

前連結会計年度(自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)

海外売上高がないため該当事項はありません。

当連結会計年度(自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)

海外売上高がないため該当事項はありません。

【関連当事者情報】

前連結会計年度(自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)

関連当事者との取引で、開示すべきものはありません。

当連結会計年度(自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)

関連当事者との取引で、開示すべきものはありません。

(1株当たり情報)

項目	前連結会計年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)
1株当たり純資産額	926円16銭	933円79銭
1株当たり当期純利益	47円61銭	15円26銭
潜在株式調整後1株当たり当期純利益	潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため記載していません。	潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため記載していません。

(注) 1株当たり当期純利益の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)
1株当たり当期純利益		
損益計算書上の当期純利益(千円)	419,443	134,406
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る当期純利益(千円)	419,443	134,406
普通株式に係る期中平均株式数(千株)	8,808	8,808

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

【連結附属明細表】

【社債明細表】

該当事項はありません。

【借入金等明細表】

区分	前期末残高 (千円)	当期末残高 (千円)	平均利率 (%)	返済期限
短期借入金	5,620,000	5,240,000	0.7	-
1年以内に返済予定の長期借入金	-	-	-	-
1年以内に返済予定のリース債務	-	32,528	-	-
長期借入金(1年以内に返済予定のものを除く。)	-	-	-	-
リース債務(1年以内に返済予定のものを除く。)	-	108,712	-	平成23年～25年
その他有利子負債	-	-	-	-
合計	5,620,000	5,381,240	-	-

(注) 1. 平均利率については、期中平均借入金残高に対する加重平均利率を記載しております。

2. リース債務の平均利率については、リース料総額に含まれる利息相当額を控除する前の金額でリース債務を連結貸借対照表に計上しているため、記載していません。

3. 長期借入金及びリース債務(1年以内に返済予定のものを除く。)の連結決算日後5年間の返済予定額は以下のとおりであります。

	1年超2年以内 (千円)	2年超3年以内 (千円)	3年超4年以内 (千円)	4年超5年以内 (千円)
リース債務	32,528	32,528	32,528	11,127

(2) 【その他】

当連結会計年度における四半期情報

	第1四半期 自平成21年4月1日 至平成21年6月30日	第2四半期 自平成21年7月1日 至平成21年9月30日	第3四半期 自平成21年10月1日 至平成21年12月31日	第4四半期 自平成22年1月1日 至平成22年3月31日
売上高(千円)	3,218,250	3,906,228	4,207,207	4,599,223
税金等調整前四半期純利益 金額又は税金等調整前四半 期純損失()(千円)	12,946	73,296	78,779	141,269
四半期純利益金額又は四半 期純損失()(千円)	17,590	36,567	39,545	75,884
1株当たり四半期純利益金 額又は1株当たり四半期純 損失()(円)	2.00	4.15	4.49	8.61

2【財務諸表等】
 (1)【財務諸表】
 【貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (平成21年 3 月31日)	当事業年度 (平成22年 3 月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,129,381	487,769
受取手形	2,540,559	2,377,827
売掛金	2,072,750	2,428,165
商品及び製品	1,045,894	1,171,805
原材料及び貯蔵品	7,192	6,297
前払費用	8,092	7,999
繰延税金資産	57,261	59,274
その他	43,387	77,435
貸倒引当金	30,227	18,262
流動資産合計	6,874,292	6,598,310
固定資産		
有形固定資産		
建物	4,995,941	5,109,237
減価償却累計額	2,580,262	2,708,525
建物（純額）	2,415,679	2,400,712
構築物	284,276	295,501
減価償却累計額	198,790	212,808
構築物（純額）	85,485	82,693
車両運搬具	317,977	324,519
減価償却累計額	249,759	269,451
車両運搬具（純額）	68,218	55,067
工具、器具及び備品	244,148	245,161
減価償却累計額	212,102	216,435
工具、器具及び備品（純額）	32,045	28,726
土地	6,295,574	6,405,185
リース資産	-	162,642
減価償却累計額	-	21,401
リース資産（純額）	-	141,240
建設仮勘定	199	399
有形固定資産合計	8,897,203	9,114,024
無形固定資産		
借地権	183,254	183,254
ソフトウェア	2,309	1,647
その他	12,646	12,508
無形固定資産合計	198,210	197,411

	前事業年度 (平成21年 3 月31日)	当事業年度 (平成22年 3 月31日)
投資その他の資産		
投資有価証券	36,531	41,798
関係会社株式	430,000	519,178
従業員に対する長期貸付金	4,278	5,264
破産更生債権等	167,264	164,579
長期前払費用	599	307
繰延税金資産	310,306	308,108
敷金及び保証金	19,242	20,200
その他	19,546	19,592
貸倒引当金	125,895	127,770
投資その他の資産合計	861,872	951,259
固定資産合計	9,957,286	10,262,695
資産合計	16,831,579	16,861,006
負債の部		
流動負債		
支払手形	460,417	397,728
買掛金	1,509,799	1,839,380
短期借入金	5,450,000	5,150,000
リース債務	-	32,528
未払金	55,855	73,545
未払費用	60,126	62,484
未払法人税等	199,243	106,988
未払消費税等	27,208	-
預り金	17,497	17,659
賞与引当金	75,888	75,708
設備関係支払手形	96,754	48,300
その他	241	241
流動負債合計	7,953,032	7,804,565
固定負債		
リース債務	-	108,712
退職給付引当金	478,064	494,977
役員退職慰労引当金	248,800	246,600
その他	13,970	11,720
固定負債合計	740,834	862,009
負債合計	8,693,867	8,666,575

	前事業年度 (平成21年 3 月31日)	当事業年度 (平成22年 3 月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,073,200	1,073,200
資本剰余金		
資本準備金	951,153	951,153
資本剰余金合計	951,153	951,153
利益剰余金		
利益準備金	125,000	125,000
その他利益剰余金		
別途積立金	5,430,000	5,720,000
繰越利益剰余金	563,830	327,428
利益剰余金合計	6,118,830	6,172,428
自己株式	13,452	13,491
株主資本合計	8,129,732	8,183,290
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	7,979	11,139
評価・換算差額等合計	7,979	11,139
純資産合計	8,137,711	8,194,430
負債純資産合計	16,831,579	16,861,006

【損益計算書】

(単位：千円)

	前事業年度 (自 平成20年 4 月 1 日 至 平成21年 3 月31日)	当事業年度 (自 平成21年 4 月 1 日 至 平成22年 3 月31日)
売上高	17,163,351	15,338,161
売上原価		
商品期首たな卸高	1,293,308	1,045,894
当期商品仕入高	13,747,101	12,916,886
合計	15,040,409	13,962,780
商品期末たな卸高	1,045,894	1,171,805
商品売上原価	13,994,515	12,790,975
売上総利益	3,168,836	2,547,186
販売費及び一般管理費	₁ 2,702,446	₁ 2,551,013
営業利益又は営業損失 ()	466,389	3,827
営業外収益		
受取利息	1,766	494
受取配当金	1,129	430
仕入割引	298,321	263,613
雑収入	37,944	30,855
営業外収益合計	339,161	295,393
営業外費用		
支払利息	52,024	32,228
その他	14	10
営業外費用合計	52,038	32,238
経常利益	753,511	259,328
特別利益		
固定資産売却益	₂ 2,580	₂ 802
特別利益合計	2,580	802
特別損失		
固定資産除却損	₃ 322	₃ 212
固定資産売却損	₄ 1,147	₄ 561
特別損失合計	1,470	773
税引前当期純利益	754,622	259,357
法人税、住民税及び事業税	312,380	137,212
法人税等調整額	29,763	1,922
法人税等合計	342,143	135,289
当期純利益	412,479	124,067

【株主資本等変動計算書】

(単位：千円)

	前事業年度 (自 平成20年 4 月 1 日 至 平成21年 3 月31日)	当事業年度 (自 平成21年 4 月 1 日 至 平成22年 3 月31日)
株主資本		
資本金		
前期末残高	1,073,200	1,073,200
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	1,073,200	1,073,200
資本剰余金		
資本準備金		
前期末残高	951,153	951,153
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	951,153	951,153
資本剰余金合計		
前期末残高	951,153	951,153
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	951,153	951,153
利益剰余金		
利益準備金		
前期末残高	125,000	125,000
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	125,000	125,000
その他利益剰余金		
別途積立金		
前期末残高	5,020,000	5,430,000
当期変動額		
別途積立金の積立	410,000	290,000
当期変動額合計	410,000	290,000
当期末残高	5,430,000	5,720,000
繰越利益剰余金		
前期末残高	737,530	563,830
当期変動額		
別途積立金の積立	410,000	290,000
剰余金の配当	176,179	70,469
当期純利益	412,479	124,067
当期変動額合計	173,700	236,402
当期末残高	563,830	327,428
利益剰余金合計		
前期末残高	5,882,530	6,118,830
当期変動額		
別途積立金の積立	-	-
剰余金の配当	176,179	70,469
当期純利益	412,479	124,067
当期変動額合計	236,299	53,597
当期末残高	6,118,830	6,172,428

	前事業年度 (自 平成20年 4 月 1 日 至 平成21年 3 月31日)	当事業年度 (自 平成21年 4 月 1 日 至 平成22年 3 月31日)
自己株式		
前期末残高	13,354	13,452
当期変動額		
自己株式の取得	97	38
当期変動額合計	97	38
当期末残高	13,452	13,491
株主資本合計		
前期末残高	7,893,529	8,129,732
当期変動額		
剰余金の配当	176,179	70,469
当期純利益	412,479	124,067
自己株式の取得	97	38
当期変動額合計	236,202	53,558
当期末残高	8,129,732	8,183,290
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金		
前期末残高	15,143	7,979
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	7,164	3,160
当期変動額合計	7,164	3,160
当期末残高	7,979	11,139
評価・換算差額等合計		
前期末残高	15,143	7,979
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	7,164	3,160
当期変動額合計	7,164	3,160
当期末残高	7,979	11,139
純資産合計		
前期末残高	7,908,673	8,137,711
当期変動額		
剰余金の配当	176,179	70,469
当期純利益	412,479	124,067
自己株式の取得	97	38
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	7,164	3,160
当期変動額合計	229,038	56,719
当期末残高	8,137,711	8,194,430

【重要な会計方針】

項目	前事業年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)	当事業年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)
1. 有価証券の評価基準及び評価方法	<p>その他有価証券 時価のあるもの 決算日の市場価格に基づく時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定）を採用しております。</p>	<p>その他有価証券 時価のあるもの 同左</p>
2. たな卸資産の評価基準及び評価方法	<p>評価基準は原価法（収益性の低下による簿価切下げの方法）によっております。</p> <p>(1) 商品 移動平均法 (2) 貯蔵品 最終仕入原価法 (会計方針の変更) 当事業年度より「棚卸資産の評価に関する会計基準」（企業会計基準第9号 平成18年7月5日公表分）を適用しております。 これによる損益への影響はありません。</p>	<p>同左</p> <p>(1) 商品 移動平均法 (2) 貯蔵品 最終仕入原価法</p>
3. 固定資産の減価償却の方法	<p>(1) 有形固定資産（リース資産を除く） 定率法を採用しております。 ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物（附属設備を除く）については、定額法を採用しております。 なお、主な耐用年数は次のとおりであります。 建物 10年～50年 (2) 無形固定資産（リース資産を除く） 定額法を採用しております。 (3) 長期前払費用 定額法を採用しております。 (4) リース資産 リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。 なお、所有権移転外ファイナンス・リース取引のうち、リース取引開始日が適用初年度開始前のリース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっております。</p>	<p>(1) 有形固定資産（リース資産を除く） 同左 (2) 無形固定資産 同左 (3) 長期前払費用 同左 (4) リース資産 同左</p>

項目	前事業年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)	当事業年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)
4. 引当金の計上基準	<p>(1) 貸倒引当金 債権の貸倒による損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。</p> <p>(2) 賞与引当金 従業員に支給する賞与の支払いに備えるため、支給見込額基準により計上しております。</p> <p>(3) 退職給付引当金 従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務の見込額に基づき計上しております。 なお、会計基準変更時差異については、15年による按分額を費用計上しております。 数理計算上の差異は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（5年）による定額法により翌事業年度から処理しております。</p> <p>(4) 役員退職慰労引当金 役員の退職慰労金の支給に備えるため、内規に基づく期末要支給額を計上しております。</p>	<p>(1) 貸倒引当金 同左</p> <p>(2) 賞与引当金 同左</p> <p>(3) 退職給付引当金 同左</p> <p>(会計方針の変更) 当事業年度より「「退職給付に係る会計基準」の一部改正（その3）」（企業会計基準第19号 平成20年7月31日）を適用しております。 これによる損益への影響はありません。</p> <p>(4) 役員退職慰労引当金 同左</p>
5. その他財務諸表作成のための重要な事項	消費税等の会計処理 税抜方式によっております。	消費税等の会計処理 同左

【会計処理方法の変更】

前事業年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)	当事業年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)
<p>(リース取引に関する会計基準)</p> <p>所有権移転外ファイナンス・リース取引については、従来、賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっておりましたが、当事業年度より「リース取引に関する会計基準」(企業会計基準第13号(平成5年6月17日(企業会計審議会第一部会)、平成19年3月30日改正))及び「リース取引に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第16号(平成6年1月18日(日本公認会計士協会 会計制度委員会)、平成19年3月30日改正))を適用し、通常の売買取引に係る方法に準じた会計処理によっております。</p> <p>なお、リース取引開始日が適用初年度開始前の所有権移転外ファイナンス・リース取引については、引き続き通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理を適用しております。</p> <p>これによる損益への影響はありません。</p>	

【注記事項】

(貸借対照表関係)

該当事項はありません。

(損益計算書関係)

前事業年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)	当事業年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)																																																																										
<p>1. 販売費及び一般管理費</p> <p>販売費に属する費用のおおよその割合は75%であり、一般管理費に属する費用のおおよその割合は25%であります。</p> <p>主要な費目及び金額は次のとおりであります。</p> <table> <tr><td>運賃</td><td>25,050千円</td></tr> <tr><td>貸倒引当金繰入額</td><td>49,026</td></tr> <tr><td>役員報酬</td><td>87,611</td></tr> <tr><td>給料</td><td>1,305,003</td></tr> <tr><td>賞与</td><td>72,197</td></tr> <tr><td>賞与引当金繰入額</td><td>75,888</td></tr> <tr><td>退職給付費用</td><td>62,290</td></tr> <tr><td>役員退職慰労引当金繰入額</td><td>14,300</td></tr> <tr><td>福利厚生費</td><td>218,749</td></tr> <tr><td>支払手数料</td><td>104,896</td></tr> <tr><td>租税公課</td><td>118,429</td></tr> <tr><td>減価償却費</td><td>201,017</td></tr> <tr><td>不動産賃借料</td><td>84,288</td></tr> <tr><td>通信費</td><td>51,222</td></tr> <tr><td>修繕費</td><td>29,456</td></tr> <tr><td>燃料費</td><td>69,255</td></tr> <tr><td>消耗品費</td><td>25,380</td></tr> <tr><td>水道光熱費</td><td>49,460</td></tr> </table>	運賃	25,050千円	貸倒引当金繰入額	49,026	役員報酬	87,611	給料	1,305,003	賞与	72,197	賞与引当金繰入額	75,888	退職給付費用	62,290	役員退職慰労引当金繰入額	14,300	福利厚生費	218,749	支払手数料	104,896	租税公課	118,429	減価償却費	201,017	不動産賃借料	84,288	通信費	51,222	修繕費	29,456	燃料費	69,255	消耗品費	25,380	水道光熱費	49,460	<p>1. 販売費及び一般管理費</p> <p>販売費に属する費用のおおよその割合は77%であり、一般管理費に属する費用のおおよその割合は23%であります。</p> <p>主要な費目及び金額は次のとおりであります。</p> <table> <tr><td>運賃</td><td>24,927千円</td></tr> <tr><td>貸倒引当金繰入額</td><td>10,089</td></tr> <tr><td>貸倒損失</td><td>791</td></tr> <tr><td>役員報酬</td><td>73,900</td></tr> <tr><td>給料</td><td>1,284,931</td></tr> <tr><td>賞与</td><td>68,444</td></tr> <tr><td>賞与引当金繰入額</td><td>72,899</td></tr> <tr><td>退職給付費用</td><td>66,204</td></tr> <tr><td>役員退職慰労引当金繰入額</td><td>13,500</td></tr> <tr><td>福利厚生費</td><td>209,124</td></tr> <tr><td>支払手数料</td><td>101,422</td></tr> <tr><td>租税公課</td><td>113,098</td></tr> <tr><td>減価償却費</td><td>212,439</td></tr> <tr><td>不動産賃借料</td><td>86,104</td></tr> <tr><td>通信費</td><td>50,000</td></tr> <tr><td>修繕費</td><td>33,542</td></tr> <tr><td>燃料費</td><td>55,099</td></tr> <tr><td>消耗品費</td><td>25,709</td></tr> <tr><td>水道光熱費</td><td>45,357</td></tr> </table>	運賃	24,927千円	貸倒引当金繰入額	10,089	貸倒損失	791	役員報酬	73,900	給料	1,284,931	賞与	68,444	賞与引当金繰入額	72,899	退職給付費用	66,204	役員退職慰労引当金繰入額	13,500	福利厚生費	209,124	支払手数料	101,422	租税公課	113,098	減価償却費	212,439	不動産賃借料	86,104	通信費	50,000	修繕費	33,542	燃料費	55,099	消耗品費	25,709	水道光熱費	45,357
運賃	25,050千円																																																																										
貸倒引当金繰入額	49,026																																																																										
役員報酬	87,611																																																																										
給料	1,305,003																																																																										
賞与	72,197																																																																										
賞与引当金繰入額	75,888																																																																										
退職給付費用	62,290																																																																										
役員退職慰労引当金繰入額	14,300																																																																										
福利厚生費	218,749																																																																										
支払手数料	104,896																																																																										
租税公課	118,429																																																																										
減価償却費	201,017																																																																										
不動産賃借料	84,288																																																																										
通信費	51,222																																																																										
修繕費	29,456																																																																										
燃料費	69,255																																																																										
消耗品費	25,380																																																																										
水道光熱費	49,460																																																																										
運賃	24,927千円																																																																										
貸倒引当金繰入額	10,089																																																																										
貸倒損失	791																																																																										
役員報酬	73,900																																																																										
給料	1,284,931																																																																										
賞与	68,444																																																																										
賞与引当金繰入額	72,899																																																																										
退職給付費用	66,204																																																																										
役員退職慰労引当金繰入額	13,500																																																																										
福利厚生費	209,124																																																																										
支払手数料	101,422																																																																										
租税公課	113,098																																																																										
減価償却費	212,439																																																																										
不動産賃借料	86,104																																																																										
通信費	50,000																																																																										
修繕費	33,542																																																																										
燃料費	55,099																																																																										
消耗品費	25,709																																																																										
水道光熱費	45,357																																																																										

前事業年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)	当事業年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)
2. 固定資産売却益の内訳は次のとおりであります。 車両運搬具 2,580千円	2. 固定資産売却益の内訳は次のとおりであります。 車両運搬具 802千円
3. 固定資産除却損の内訳は次のとおりであります。 車両運搬具 255千円 工具・器具・備品 66	3. 固定資産除却損の内訳は次のとおりであります。 車両運搬具 141千円 工具・器具・備品 70
計 322	計 212
4. 固定資産売却損の内訳は次のとおりであります。 車両運搬具 1,147千円	4. 固定資産売却損の内訳は次のとおりであります。 車両運搬具 561千円

(株主資本等変動計算書関係)

前事業年度(自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)

自己株式の種類及び株式数に関する事項

	前事業年度末 株式数(株)	当事業年度増加 株式数(株)	当事業年度減少 株式数(株)	当事業年度末 株式数(株)
普通株式(注)	23,018	238	-	23,256
合計	23,018	238	-	23,256

(注) 普通株式の自己株式の株式数の増加238株は、単元未満株式の買取りによる増加であります。

当事業年度(自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)

自己株式の種類及び株式数に関する事項

	前事業年度末 株式数(株)	当事業年度増加 株式数(株)	当事業年度減少 株式数(株)	当事業年度末 株式数(株)
普通株式(注)	23,256	92	-	23,348
合計	23,256	92	-	23,348

(注) 普通株式の自己株式の株式数の増加92株は、単元未満株式の買取りによる増加であります。

(リース取引関係)

前事業年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)				当事業年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)			
ファイナンス・リース取引(借主側) 所有権移転外ファイナンス・リース取引 リース資産の内容 該当事項はありません。 リース資産の減価償却の方法 重要な会計方針「3. 固定資産の減価償却の方法」に記載のとおりであります。 なお、所有権移転外ファイナンス・リース取引のうち、リース取引開始日が、平成20年3月31日以前のリース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっており、その内容は次のとおりであります。 (1) リース物件の取得価額相当額、減価償却累計額相当額、減損損失累計額相当額及び期末残高相当額				ファイナンス・リース取引(借主側) 所有権移転外ファイナンス・リース取引 リース資産の内容 有形固定資産 リース資産の減価償却の方法 同左 (1) リース物件の取得価額相当額、減価償却累計額相当額、減損損失累計額相当額及び期末残高相当額			
	取得価額相当額 (千円)	減価償却累計額相当額 (千円)	期末残高相当額 (千円)		取得価額相当額 (千円)	減価償却累計額相当額 (千円)	期末残高相当額 (千円)
機械及び装置	15,422	14,137	1,285	機械及び装置	15,422	15,422	-
工具・器具・備品	28,518	16,421	12,097	工具・器具・備品	28,518	22,124	6,393
合計	43,941	30,558	13,382	合計	43,941	37,547	6,393
(注) 取得価額相当額は、未経過リース料期末残高の有形固定資産の期末残高等に占める割合が低い ため、支払利子込み法により算定しております。 (2) 未経過リース料期末残高相当額等 未経過リース料期末残高相当額 1年内 6,988千円 1年超 6,393 合計 13,382 (注) 未経過リース料期末残高相当額は、未経過リース料期末残高の有形固定資産の期末残高等に占める割合が低い ため、支払利子込み法により算定しております。 (3) 支払リース料、リース資産減損勘定の取崩額、減価償却費相当額、減価償却費相当額及び減損損失 支払リース料 8,274千円 減価償却費相当額 8,274 (4) 減価償却費相当額の算定方法 リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。 (減損損失について) リース資産に配分された減損損失はありません。				同左 (2) 未経過リース料期末残高相当額等 未経過リース料期末残高相当額 1年内 5,301千円 1年超 1,092 合計 6,393 同左 (3) 支払リース料、リース資産減損勘定の取崩額、減価償却費相当額、減価償却費相当額及び減損損失 支払リース料 6,988千円 減価償却費相当額 6,988 (4) 減価償却費相当額の算定方法 同左 (減損損失について) 同左			

(有価証券関係)

前事業年度(平成21年3月31日現在)

子会社株式及び関連会社株式で時価のあるものはありません。

当事業年度(平成22年3月31日現在)

子会社株式(貸借対照表計上額 子会社株式519,178千円)は、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、記載しておりません。

関連会社株式については、該当事項はありません。

(税効果会計関係)

前事業年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)	当事業年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)																																																												
<p>1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳</p> <p>繰延税金資産</p> <table> <tr> <td>退職給付引当金</td><td>191,225千円</td></tr> <tr> <td>役員退職慰労引当金</td><td>99,520</td></tr> <tr> <td>貸倒引当金</td><td>28,205</td></tr> <tr> <td>賞与引当金</td><td>30,355</td></tr> <tr> <td>未払事業税否認額</td><td>14,994</td></tr> <tr> <td>その他</td><td>18,260</td></tr> <tr> <td>小計</td><td>382,561</td></tr> <tr> <td>評価性引当額</td><td>9,674</td></tr> </table> <p>繰延税金資産合計 372,887</p> <p>繰延税金負債</p> <table> <tr> <td>その他有価証券評価差額金</td><td>5,319</td></tr> </table> <p>繰延税金負債合計 5,319</p> <p>繰延税金資産の純額 367,567</p> <p>2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因の内訳</p> <table> <tr> <td>法定実効税率</td><td>40.0%</td></tr> <tr> <td>(調整)</td><td></td></tr> <tr> <td>交際費等永久に損金に算入されない項目</td><td>0.2</td></tr> <tr> <td>住民税均等割</td><td>3.7</td></tr> <tr> <td>その他</td><td>1.5</td></tr> <tr> <td>税効果会計適用後の法人税等の負担率</td><td>45.3</td></tr> </table>	退職給付引当金	191,225千円	役員退職慰労引当金	99,520	貸倒引当金	28,205	賞与引当金	30,355	未払事業税否認額	14,994	その他	18,260	小計	382,561	評価性引当額	9,674	その他有価証券評価差額金	5,319	法定実効税率	40.0%	(調整)		交際費等永久に損金に算入されない項目	0.2	住民税均等割	3.7	その他	1.5	税効果会計適用後の法人税等の負担率	45.3	<p>1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳</p> <p>繰延税金資産</p> <table> <tr> <td>退職給付引当金</td><td>98,640千円</td></tr> <tr> <td>役員退職慰労引当金</td><td>197,990</td></tr> <tr> <td>貸倒引当金</td><td>20,759</td></tr> <tr> <td>賞与引当金</td><td>30,283</td></tr> <tr> <td>未払事業税否認額</td><td>8,247</td></tr> <tr> <td>その他</td><td>28,562</td></tr> <tr> <td>小計</td><td>384,483</td></tr> <tr> <td>評価性引当額</td><td>9,674</td></tr> </table> <p>繰延税金資産合計 374,809</p> <p>繰延税金負債</p> <table> <tr> <td>その他有価証券評価差額金</td><td>7,426</td></tr> </table> <p>繰延税金負債合計 7,426</p> <p>繰延税金資産の純額 367,383</p> <p>2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因の内訳</p> <table> <tr> <td>法定実効税率</td><td>40%</td></tr> <tr> <td>(調整)</td><td></td></tr> <tr> <td>交際費等永久に損金に算入されない項目</td><td>0.4</td></tr> <tr> <td>住民税均等割</td><td>11.4</td></tr> <tr> <td>その他</td><td>0.3</td></tr> <tr> <td>税効果会計適用後の法人税等の負担率</td><td>52.2</td></tr> </table>	退職給付引当金	98,640千円	役員退職慰労引当金	197,990	貸倒引当金	20,759	賞与引当金	30,283	未払事業税否認額	8,247	その他	28,562	小計	384,483	評価性引当額	9,674	その他有価証券評価差額金	7,426	法定実効税率	40%	(調整)		交際費等永久に損金に算入されない項目	0.4	住民税均等割	11.4	その他	0.3	税効果会計適用後の法人税等の負担率	52.2
退職給付引当金	191,225千円																																																												
役員退職慰労引当金	99,520																																																												
貸倒引当金	28,205																																																												
賞与引当金	30,355																																																												
未払事業税否認額	14,994																																																												
その他	18,260																																																												
小計	382,561																																																												
評価性引当額	9,674																																																												
その他有価証券評価差額金	5,319																																																												
法定実効税率	40.0%																																																												
(調整)																																																													
交際費等永久に損金に算入されない項目	0.2																																																												
住民税均等割	3.7																																																												
その他	1.5																																																												
税効果会計適用後の法人税等の負担率	45.3																																																												
退職給付引当金	98,640千円																																																												
役員退職慰労引当金	197,990																																																												
貸倒引当金	20,759																																																												
賞与引当金	30,283																																																												
未払事業税否認額	8,247																																																												
その他	28,562																																																												
小計	384,483																																																												
評価性引当額	9,674																																																												
その他有価証券評価差額金	7,426																																																												
法定実効税率	40%																																																												
(調整)																																																													
交際費等永久に損金に算入されない項目	0.4																																																												
住民税均等割	11.4																																																												
その他	0.3																																																												
税効果会計適用後の法人税等の負担率	52.2																																																												

(1 株当たり情報)

項目	前事業年度 (自 平成20年 4 月 1 日 至 平成21年 3 月31日)	当事業年度 (自 平成21年 4 月 1 日 至 平成22年 3 月31日)
1 株当たり純資産額	923円82銭	930円27銭
1 株当たり当期純利益	46円82銭	14円08銭
潜在株式調整後 1 株当たり当期純利益	潜在株式調整後 1 株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。	潜在株式調整後 1 株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(注) 1 株当たり当期純利益の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成20年 4 月 1 日 至 平成21年 3 月31日)	当事業年度 (自 平成21年 4 月 1 日 至 平成22年 3 月31日)
1 株当たり当期純利益		
損益計算書上の当期純利益 (千円)	412,479	124,067
普通株主に帰属しない金額 (千円)	-	-
普通株式に係る当期純利益 (千円)	412,479	124,067
普通株式に係る期中平均株式数 (千株)	8,808	8,808

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

【附属明細表】

【有価証券明細表】

有価証券の金額が資産の総額の100分の1以下のため、財務諸表等規則第124条の規定により記載を省略しております。

【有形固定資産等明細表】

資産の種類	前期末残高 (千円)	当期増加額 (千円)	当期減少額 (千円)	当期末残高 (千円)	当期末減価償却累計額又は償却累計額 (千円)	当期償却額 (千円)	差引当期末残高 (千円)
有形固定資産							
建物	4,995,941	113,295	-	5,109,237	2,708,525	128,262	2,400,712
構築物	284,276	11,224	-	295,501	212,808	14,017	82,693
車両運搬具	317,977	28,606	22,064	324,519	269,451	40,276	55,067
工具、器具及び備品	244,148	5,233	4,220	245,161	216,435	8,482	28,726
土地	6,295,574	109,611	-	6,405,185	-	-	6,405,185
リース資産	-	162,642	-	162,642	21,401	21,401	141,240
建設仮勘定	199	76,517	76,318	399	-	-	399
有形固定資産計	12,138,118	344,489	102,603	12,380,004	3,428,621	212,439	9,114,024
無形固定資産							
借地権	183,254	-	-	183,254	-	-	183,254
ソフトウェア	3,306	-	-	3,306	2,519	137	1,647
その他	15,027	-	-	15,027	1,658	661	12,508
無形固定資産計	201,589	-	-	201,589	4,177	799	197,411
長期前払費用	1,691	-	760	930	623	292	307

(注) 当期増加額のうち主なものは、次のとおりであります。

建物 蒲田営業所建物 111,483千円

土地 沼津営業所土地 10,385千円

熊本営業所土地 99,226千円

リース資産 システムの入替に係る増加であります。

建設仮勘定 蒲田営業所建物取得等に係る増加・減少であります。

【引当金明細表】

区分	前期末残高 (千円)	当期増加額 (千円)	当期減少額 (目的使用) (千円)	当期減少額 (その他) (千円)	当期末残高 (千円)
貸倒引当金	156,123	29,233	-	39,322	146,033
賞与引当金	75,888	75,708	75,888	-	75,708
役員退職慰労引当金	248,800	13,500	15,700	-	246,600

(注) 貸倒引当金の当期減少額「その他」は、洗替等によるものであります。

(2) 【主な資産及び負債の内容】

資産の部

イ．現金及び預金

区分	金額（千円）
現金	17,027
銀行預金	
当座預金	166,121
普通預金	298,525
別段預金	6,093
小計	470,741
合計	487,769

ロ．受取手形

相手先別内訳

相手先	金額（千円）
(株)新営電気設備	60,453
太平電業(株)	55,287
(株)沼尻電気工事	48,284
(株)北信電気建設	46,612
北総電機産業(株)	39,882
その他	2,127,306
合計	2,377,827

期日別内訳

期日別	金額（千円）
平成22年 4 月	654,159
5 月	615,298
6 月	550,432
7 月	456,837
8 月	95,175
9 月	5,874
10月以降	50
合計	2,377,827

八．売掛金
相手先別内訳

相手先	金額（千円）
(株)沼尻電気工事	42,321
(株)竹本電機商会	32,471
(株)エクセルユニ	22,891
(株)新営電気設備	21,584
北総電機産業(株)	20,630
その他	2,288,265
合計	2,428,165

売掛金の発生及び回収並びに滞留状況

前期繰越高 （千円）	当期発生高 （千円）	当期回収高 （千円）	次期繰越高 （千円）	回収率（％）	滞留期間（日） (A) + (D)
(A)	(B)	(C)	(D)	$\frac{(C)}{(A) + (B)} \times 100$	2 (B) 365
2,072,750	15,997,427	15,642,012	2,428,165	86.6	51

（注）当期発生高には、消費税等が含まれております。

二．商品及び製品

品目	金額（千円）
照明器具類	102,348
電線類	513,086
配・分電盤類	253,138
家電品類	142,419
その他	160,812
合計	1,171,805

ホ．原材料及び貯蔵品

区分	金額（千円）
印刷物	4,675
作業服	1,537
その他	83
合計	6,297

負債の部
イ．支払手形
相手先別内訳

相手先	金額（千円）
ネグロス電工(株)	78,188
(株)別川製作所	38,187
丸紅メタル(株)	26,500
(株)タチバナ	16,905
藤長電気(株)	13,896
その他	224,049
合計	397,728

期日別内訳

期日別	金額（千円）
平成22年 4 月	95,775
5 月	111,207
6 月	75,934
7 月	53,331
8 月	61,479
合計	397,728

ロ．買掛金

相手先	金額（千円）
パナソニック電工(株)	219,037
泉州電業(株)	116,341
昭和電気(株)	102,380
岩崎電気(株)	89,458
愛知電線(株)	55,121
その他	1,257,041
合計	1,839,380

八．短期借入金

相手先	金額（千円）
(株)三井住友銀行	1,700,000
(株)三菱東京ＵＦＪ銀行	1,350,000
(株)みずほ銀行	900,000
信金中央金庫	600,000
三菱ＵＦＪ信託銀行(株)	600,000
合計	5,150,000

二．設備関係支払手形

相手先別内訳

相手先	金額（千円）
斉藤工業(株)	48,300
合計	48,300

期日別内訳

期日別	金額（千円）
平成22年 4 月	-
5 月	48,300
合計	48,300

（３）【その他】

該当事項はありません。

第 6 【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	4 月 1 日から 3 月31日まで
定時株主総会	6 月中
基準日	3 月31日
剰余金の配当の基準日	9 月30日 3 月31日
1 単元の株式数	100株
単元未満株式の買取り	
取扱場所	(特別口座) 東京都千代田区丸の内一丁目 4 番 5 号 三菱 U F J 信託銀行株式会社 証券代行部
株主名簿管理人	(特別口座) 東京都千代田区丸の内一丁目 4 番 5 号 三菱 U F J 信託銀行株式会社
取次所 買取手数料	無料
公告掲載方法	電子公告により行う、ただし電子公告によることができない事故その他やむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に掲載して行う。 公告掲載 U R L http://www.tanakashoji.co.jp
株主に対する特典	該当事項はありません。

(注) 当会社の株主は、その有する単元未満株式について、次に掲げる権利以外の権利を行使することができません。

- (1) 会社法189条第 2 項各号に掲げる権利
- (2) 会社法第166条第 1 項の規定による請求をする権利
- (3) 株主の有する株式数に応じて募集株式または募集新株予約権の割当てを受ける権利

第7【提出会社の参考情報】

1【提出会社の親会社等の情報】

当社は親会社等がありませんので、該当事項はありません。

2【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に、次の書類を提出しております。

(1) 有価証券報告書及びその添付書類

事業年度（第48期）（自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日）平成21年6月25日関東財務局長に提出

(2) 内部統制報告書及びその添付書類

平成21年6月25日関東財務局長に提出

(3) 四半期報告書及び確認書並びに確認書

（第49期第1四半期）（自 平成21年4月1日 至 平成21年6月30日）平成21年8月10日関東財務局長に提出

（第49期第2四半期）（自 平成21年7月1日 至 平成21年9月30日）平成21年11月10日関東財務局長に提出

（第49期第3四半期）（自 平成21年10月1日 至 平成21年12月31日）平成22年2月9日関東財務局長に提出

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

平成21年 6 月25日

田 中 商 事 株 式 会 社
取 締 役 会 御 中

東 陽 監 査 法 人

指 定 社 員 公 認 会 計 士 石 井 操 印
業 務 執 行 社 員

指 定 社 員 公 認 会 計 士 小 林 弥 印
業 務 執 行 社 員

< 財務諸表監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている田中商事株式会社の平成20年4月1日から平成21年3月31日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書及び連結附属明細表について監査を行った。この連結財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結財務諸表に重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。監査は、試査を基礎として行われ、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結財務諸表の表示を検討することを含んでいる。当監査法人は、監査の結果として意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、田中商事株式会社及び連結子会社の平成21年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

< 内部統制監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、田中商事株式会社の平成21年3月31日現在の内部統制報告書について監査を行った。財務報告に係る内部統制を整備及び運用並びに内部統制報告書を作成する責任は、経営者にあり、当監査法人の責任は、独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。また、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準は、当監査法人に内部統制報告書に重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。内部統制監査は、試査を基礎として行われ、財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果についての、経営者が行った記載を含め全体としての内部統制報告書の表示を検討することを含んでいる。当監査法人は、内部統制監査の結果として意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、田中商事株式会社が平成21年3月31日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価について、すべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

1. 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（有価証券報告書提出会社）が別途保管しております。
2. 連結財務諸表の範囲にはX B R L データ自体は含まれていません。

独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

平成22年 6月24日

田 中 商 事 株 式 会 社
取 締 役 会 御 中

東 陽 監 査 法 人

指 定 社 員 公 認 会 計 士 石 井 操 印
業 務 執 行 社 員

指 定 社 員 公 認 会 計 士 小 林 弥 印
業 務 執 行 社 員

< 財務諸表監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている田中商事株式会社の平成21年4月1日から平成22年3月31日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書及び連結附属明細表について監査を行った。この連結財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結財務諸表に重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。監査は、試査を基礎として行われ、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結財務諸表の表示を検討することを含んでいる。当監査法人は、監査の結果として意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、田中商事株式会社及び連結子会社の平成22年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

追記情報

（会計方針の変更）に記載されているとおり、会社は当連結会計年度より「退職給付に係る会計基準」の一部改正（その3）」（企業会計基準第19号 平成20年7月31日）を適用している。

< 内部統制監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、田中商事株式会社の平成22年3月31日現在の内部統制報告書について監査を行った。財務報告に係る内部統制を整備及び運用並びに内部統制報告書を作成する責任は、経営者にあり、当監査法人の責任は、独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。また、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準は、当監査法人に内部統制報告書に重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。内部統制監査は、試査を基礎として行われ、財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果についての、経営者が行った記載を含め全体としての内部統制報告書の表示を検討することを含んでいる。当監査法人は、内部統制監査の結果として意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、田中商事株式会社が平成22年3月31日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価について、すべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- 1．上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（有価証券報告書提出会社）が別途保管しております。
- 2．連結財務諸表の範囲にはX B R L データ自体は含まれていません。

独立監査人の監査報告書

平成21年 6月25日

田 中 商 事 株 式 会 社
取 締 役 会 御 中

東 陽 監 査 法 人

指 定 社 員 公 認 会 計 士 石 井 操 印
業 務 執 行 社 員

指 定 社 員 公 認 会 計 士 小 林 弥 印
業 務 執 行 社 員

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている田中商事株式会社の平成20年4月1日から平成21年3月31日までの第48期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書及び附属明細表について監査を行った。この財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。監査は、試査を基礎として行われ、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することを含んでいる。当監査法人は、監査の結果として意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、田中商事株式会社の平成21年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- 1．上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（有価証券報告書提出会社）が別途保管しております。
 - 2．財務諸表の範囲にはX B R Lデータ自体は含まれていません。

独立監査人の監査報告書

平成22年 6 月24日

田 中 商 事 株 式 会 社
取 締 役 会 御 中

東 陽 監 査 法 人

指 定 社 員 公 認 会 計 士 石 井 操 印
業 務 執 行 社 員

指 定 社 員 公 認 会 計 士 小 林 弥 印
業 務 執 行 社 員

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている田中商事株式会社の平成21年4月1日から平成22年3月31日までの第49期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書及び附属明細表について監査を行った。この財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。監査は、試査を基礎として行われ、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することを含んでいる。当監査法人は、監査の結果として意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、田中商事株式会社の平成22年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

追記情報

（会計方針の変更）に記載されているとおり、会社は当事業年度より「退職給付に係る会計基準」の一部改正（その3）」（企業会計基準第19号 平成20年7月31日）を適用している。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- 1．上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（有価証券報告書提出会社）が別途保管しております。
 - 2．財務諸表の範囲にはX B R L データ自体は含まれていません。